

Title	斯道文庫蔵吉田小五郎丹緑本コレクション目録
Sub Title	Catalogue of the Yoshida Kogoro tanrokubon collection in the Keio Institute of Oriental Classics
Author	佐々木, 孝浩(Sasaki, Takahiro)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2025
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.59 (2024.) ,p.226 (65)- 288 (3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20240000-0225

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

斯道文庫蔵 吉田小五郎丹緑本コレクション目録

佐々木 孝浩

緒 言

日本印刷史上において、16 世紀極末に始まった活字印刷、所謂「古活字版」が画期的な存在であることは疑いようのない事実である。漢字のみではなく、片仮名や平仮名の活字をも用いて、本格的に日本語の諸作品が刊行されるようになった意義はあまりにも大きい⁽¹⁾。

古活字版では、慶長 13 年（1608）刊の『伊勢物語』を初例として、挿絵入りの冊子本が刊行されるようになったことも大きな変化であったが、それらの中に筆による彩色本があったことも注目すべき出来事である。水銀から作られる丹、銅の錆の緑青から作られる緑の 2 色を基本とする彩色本であることから、「丹緑本」と呼ばれる⁽²⁾手彩色絵入り版本は、元和（1615～24）末頃に始まり、続く寛永（1624～44）期には活字本に限らず整版でも盛行し、古活字版終焉後の明暦（1655～58）、万治（1658～61）頃に終わりを迎えたと考えられる。古活字版の刊行時期はほぼ半世紀であるが、丹緑本の時代はそれより短い 40 年足らずであった。

「丹緑本」の発生は、当時流行していた彩色絵入写本である、所謂「奈良絵本」の影響を受けていると考えられているが、グーテンベルク聖書以降の 15 世紀中の活字印刷本である西洋のインキュナブラや、西洋古地図の中に丹緑本の色彩とそっくりのものがあることから、慶長から寛永頃までの南蛮風俗流行の時代に、そのような彩色を有するインキュナブラやその後の西洋活字印刷本が将来された可能性があるとし、挿絵に筆彩色するようになる切掛けとして、西洋の彩色本の影響を想定する考え方もある⁽³⁾。古活字版の平仮名本に、

イエズス会の宣教師たちが長崎の地を中心として、ヨーロッパから持ち込んだ活版印刷機により、日本語の金属活字を用いて刊行した所謂「国字本」の影響を認める見解があることを併せ考えると、確定することは難しいものの無視できない説であろう。

平成 20 年（2008）に開催された、国立国会図書館開館 60 周年記念貴重書展「学ぶ・集う・楽しむ」の「第 3 部 楽しむ～絵入り本の様ざま」では、奈良絵本と共に丹緑本が取り上げられ、3 点の丹緑本が出品された。その解説で、「現存する丹緑本の多くは、年月の経過により破損や褪色が進んでおり、本格的な資料調査が難しいことから、その製作方法など未だ不明の点が多く、今後の研究が待たれている」（<https://www.ndl.go.jp/exhibit60/copy3/2naraehon.html>）と説明されているが、その状況は今日でもあまり変わりはないと言えよう。そのような中で、おそらく丹緑本では最大級ものと考えられる吉田小五郎氏のコレクションが、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫の所蔵となったことは、学術的にも大変喜ばしいことである。

吉田小五郎氏は、明治 35 年（1902）新潟県柏崎の生まれで、慶應義塾大学文学部史学科卒業後に慶應義塾幼稚舎の教員となり、第二次世界大戦後の社会の変革期に、9 年間にわたって幼稚舎長を務めた人物である。晩年郷里に戻り、昭和 58 年（1983）に 81 歳で没している。多くの人々に慕われ愛されたことは、A5 版 459 頁からなる 3 回忌の追悼文集である、桑原三郎編『回想の吉田小五郎』（回想の吉田小五郎刊行委員会、1985）の存在と内容に明らかである。東西交渉史やキリシタン史を専門とし、慶應義塾大学で講義を行った他、『聖フランシスコ・シャヴィエル小伝』（大岡山書店、1932）、『人物叢書 ザヴィエル』（吉川弘文館、1959）などの著書や、翻訳『レオン・パジェス 日本切支丹宗門史 全 3 卷』（岩波文庫、1938～40）などがある。

柳宗悦らの提唱によって始まった民藝運動に参加し、古美術品や石版画などの蒐集にも努めたが、特に熱心に集め続けたのが丹緑本とその周辺の資料であった。それと共に丹緑本の研究を行い、『民藝』220～224 号（1971 年 4 月～8 月）に連載した「丹緑本覚書」（『吉田小五郎随筆選 第 3 卷』に収載）や、没後に刊行された『TANROKUBON Rare Books of Seventeenth-Century Japan』（Kodansha International、1984）などを執筆している。特に後者は、

丹緑本の唯一の専著であるが、英文であるためもあってか、日本国内であまり活用されているとは言い難い状況であり、日本語版が刊行されなかったことが惜まれる。しかしその一方で、丹緑本が海外で評価されることを見越していたことに驚かされるのである。欧米の図書館などで丹緑本に出会うことが少なくないのは、同書の影響が小さくないからではないだろうか。

吉田氏は、「丹緑本の美しさは、その単純な色と手彩色にある」とし、「直接心に訴えてくるものを持っている」とか、「線をはみ出た丹、緑、黄、紫の色彩を眺めて、つくづくその不思議な美しさを感じる」などと評している。そしてその理由を「画家に邪心（功名心）がなく「無有好醜の願」に支えられているためであろうか」と、柳宗悦が民藝の思想的拠り所とした浄土思想を紹介して説明している。⁽⁵⁾雑誌『民藝』の表紙を吉田コレクションの丹緑本がしばしば飾っていることを含めて、丹緑本と民藝運動の関連性が理解できるのである。

吉田氏の丹緑本コレクションは、兄吉田正太郎氏と共に収集した、幕末開港資料を保存展示する柏崎市の「黒船館」で保管されていたが、一括しての保存と研究的な活用を願われた御親族と、その御希望を尊重された古書店の御厚情により、断簡を含む190点が、奇しくも吉田氏の没後40年の節目の年に、斯道文庫の所蔵となったのである。斯道文庫の文庫員であった故松本隆信博士の「吉田先生と丹緑本」（『回想の吉田小五郎』所収）には、丹緑本では「何といっても吉田先生のコレクションが最大である」ことが指摘され、上野毛のお宅で多くを調査させてもらったことや、吉田氏逝去の前年に柏崎で全部を披見したことが記されており、運命的な縁を感じずにはいられないのである。

このコレクションの特色は、第一に点数の多さにあることは言うまでもない。一口に丹緑本といっても、その彩色の有様や色数は様々である⁽⁷⁾ことが、全体を眺めると良く理解できるのである。同一作品の各種丹緑本を見比べたり、同版でありながら彩色の様子が異なる例を並べて確認できたりするのは、大変ありがたいことであると言える。また、丹緑本と同時期のものでありながら、彩色されていないものや、後の時代のものでながら彩色されている絵入り本などが存在するのも、意図的な収集によるものと考えられる。丹緑本は

目立つ存在である上に希少であることもあり、現在でも高額で取引されることが多いので、後彩色と思われるものが少なくないのだが、その可能性のあるものが、高いものから判断に迷うものまで様々に揃っている点も、研究上非常に好ましいのである。

帙に入っているものは、その帙題簽に「古活字」と書かれているものが目につくが、これはかつて「舞の本」の寛永頃の絵入り版本が古活字版と認識されていたことによるもので、現在では整版本であることが明らかになっている。古活字版と判断できるのは、『四生の歌合』と『鉢かづき』、複数存在する『義経記』中の1点と数種の断簡のみとなるが、いずれも非常に貴重な存在である。この他にも、吉田光由の寛永8年(1631)の自筆書名があり、見返し絵などに数色の色刷りが認められる『新編塵劫記』⁽⁸⁾や、日本初の本格的な多色刷本として著名な『明朝紫硯』の延享3年(1746)初版本などは、丹緑本の歴史的な位置を考えるためにも重要であるが、日本印刷史にとっても極めて貴重な資料である。また、横本型奈良絵本を模して刊行された「御伽文庫本」の、間似合紙を用い手彩色を行うなどして、より写本に近付けた特装本の『和泉式部』も、それに加えることのできる希少なものである。この他にも注目すべきもの挙げると切りがない。

丹緑本は書物史研究のみではなく、文化史・美術史の面でも注目される存在であるのだが、軍記物語、幸若舞曲、御伽草子、仮名草子、説経節と古浄瑠璃の正本などで確認されることが知られる⁽¹⁰⁾ように、それらの作品の研究の対象となるものであることは説明不要であろう。また、旧蔵者や蔵書印の情報も興味深く、特に蔵書家としても著名な、書誌学者の川瀬一馬及び国文学者の横山重と、吉田氏との交流を具体的に示すものなども複数確認できる。このような学術的価値の高い個性あるコレクションの活用を願って、取り急ぎ目録を作成してみたが、丹緑本の専門家ではなく、また十分な検討を行ってもいけないので、特に彩色については判断に悩むものが非常に多く、一応の私見を示してみたものの、判定は曖昧にならざるを得なかった。丹緑本はこのコレクションに限らず、粗略に扱われたり大切に保存されなかったりしたために、汚れ・疲れ・傷み・濡れなど保存状態の極めて悪いものが多い。このコレクションの多くは、相当の手間を掛けて補修されているものが殆どな

のであるが、その際に紙を濡らすなどしたために、絵具が変色していると思われるものが少なくないのも、判断を一層難しくしているのである。

刊行時期や版種の識別などを含め、推定的な部分を中心として、この目録の記述を絶対視することなく、批判的に利用いただき、情報をお寄せいただいで完成度を高めることに協力して下さることを希望する次第である。

猶、2025 年 2 月時点では未整理であるが、配架後は「ヨ幾（本目録番号）」で出納が可能になる予定である。

注

- (1)、古活字版については、川瀬一馬『増補古活字版の研究』（日本古書籍商協会、1967）、高木浩明氏『中近世移行期の文化と古活字版』（勉誠出版、2020）などを参照いただきたい。
- (2)、古くは「ゑどり本」と呼ばれていたことが確認でき、大正頃から「丹緑本」の名称が普及することが、吉田小五郎「丹緑本覚書（一）丹緑本の名称」（『民藝』220、1951、『吉田小五郎随筆選3』（慶應義塾大学出版会、2013）所収）で考証されている。国立国会図書館の「次世代デジタルライブラリー」で「丹緑本」を検索してみると、『帝国図書館和漢書件名目録 第2編』（明治42年（1909）3月）のP390の「いはやのやうし」・「烏帽子折」、P 435「曾我物語」などに「(丹緑本)」との注記が存することが確認でき、また早稲田文学社編『文芸百科全書』（隆文館、明治42年12月）のP124「繪どり本」（水谷不倒執筆）の説明で、「此頃此種の本版本を丹緑の二種で一見小児の悪戯のやうに彩つたのが出版された、之を繪どり本一名丹緑本と呼び今も稀に残存してゐる」とあること（先引の「丹緑本覚書」で明治43年刊として引用されている）が確認できる。明治40年代頃には「丹緑本」の名前も広まりつつあったと思われる。猶、赤井達郎「丹緑本について」（『日本史研究』57、1961・11）には、「丹緑本」の呼称は水谷不倒の命名になるらしいことが指摘されている。この一文は3頁と短いものながら、丹緑本に関する情報や問題などが良くまとめられている。
- (3)、吉田「丹緑本覚書（二）丹緑本の発生と刊行の時期」（『民藝』221、1951、『吉田小五郎随筆選3』所収）註6。

- (4)、佐々木孝浩「キリシタン版国字本の造本について—平仮名古活字本との比較を通して—」（『斯道文庫論集』51、2017・2）、小秋元段「嵯峨本とその前史の一相貌」（『法政大学文学部紀要』82、2020・9）などを参照いただきたい。
- (5)、吉田「丹緑本覚書（四）丹緑本の挿絵」（『民藝』221、1951、『吉田小五郎随筆選3』所収）。註において柳の『無有好醜の願』（私家版、1957）が紹介されている。
- (6)、黒船館と吉田兄弟のコレクションについては、財団法人黒船館編『図説 黒船の時代』（河出書房新社、1995）に詳しい。この中で吉田小五郎氏は「黒船館について」と題して、兄正太郎氏の思い出とともに同館のコレクションを紹介しているが、その末尾に「吉田小五郎蒐集品の白眉」として、『義経記』の画像が掲載されている。
- (7)、そのことについては、注5所掲の「丹緑本覚書」に説明がある。
- (8)、吉田「色刷本事始」（『民藝』241、1973年、吉田小五郎随筆選3』所収）に解説がある。
- (9)、佐々木孝浩「斯道文庫蔵吉田小五郎旧蔵『明朝紫硯』について」（『斯道文庫論集』58、2024・2）を参照いただきたい。
- (10)、吉田「丹緑本覚書（三）丹緑本の系譜」（『民藝』220、1951、『吉田小五郎随筆選3』所収）に整理されている。

凡 例

- 一、本目録は、吉田小五郎氏旧蔵の丹緑本関係書コレクション190点（断簡を含む）の書誌目録である。
- 一、配列は旧蔵者の付与した通し番号（68、114は欠番）の順とし、番号のないもの（1冊と断簡20枚）については、斯道文庫搬入時の順に従って、既存の番号に続けて番号を付与した（169～190）。
- 一、同一番号でまとめられていても、明らかに取り合わせと判断できる場合と、同じ台紙に貼り合わされている断簡については「幾－1」「幾－2」の如く枝番号を付加した。

- 一、別番号を有していても、明らかにもとは一具であったと判断できるものは、一番早い番号に続けて、番号を列挙し、書誌情報をまとめて著録した。
- 一、各項の初行に、番号・書名・総巻数と存巻・現状冊数・刊行年（刊行者）・挿絵の状況を記した。
- 一、次行には、表紙（大きさ）・外題・目録題・内題・尾題・版心（丁付）・版式（匡郭寸法又は印面高さ）・刊記など・印記など、を記した。ただし、存在しない情報についてはその項目を省略した。
- 一、各項の末尾に「＊」を付して、補修の状況、表紙の付加情報、彩色の色数や様子、版種に関する情報などの補足情報を付記した。
- 一、『TANROKUBON Rare Books of Seventeenth-Century Japan』にカラー画像が掲載されるものについては、可能な範囲で照合作業を行い、該当書の項目の末尾に説明の最初のページ数を掲示した。猶、同書のカラー画像は濃く鮮やかに調整されているので、原本とはかなり色調に差があることを注意いただきたい。
- 一、「書名」は原則的に内題に拠り、それが不可能な場合には、その資料に存在する書名をその種別を付加して示した。全く書名を有さない資料については、作品が判定できる場合には通行の書名を、不明な場合には内容を理解しやすい仮書名を、〔 〕に入れて示した。
- 一、「挿絵の状況」については、「丹緑」・「〔丹緑〕」・「丹緑風」・「彩色」・「後彩色」などと区別して記した。「〔丹緑〕」は判断に迷うもの、「丹緑風」は後に意図的に真似たものであることを示すが、あくまでも編者の判断であるので、絶対視はしないでいただきたい。
- 一、「表紙」については、原後の別を示すように努めたが、このコレクションが収集された頃の補修は、できるだけ原表紙に見えるように手を加える傾向があったようで、判断に迷うものが多く、万全な判定ではないことを理解いただきたい。
- 一、「版心」については、丁付の様子も付記するように努めたが、保存状態のために確認できない場合が多く、落丁・乱丁についても万全に確認できているわけではないことを理解いただきたい。
- 一、「版式」については、匡郭・罫線の有無や半葉行数。振り仮名・濁点・

- 句点の有無などについて、匡郭寸法あるいは印面高さを添えて記述した。
- 一、「刊記など」については、刊記・奥付の他、旧蔵者の識語や書入れなどを著録した。
- 一、「印記など」については、わかる範囲での印文と印主の情報や、旧蔵者の手掛かりとなる書入れなどについて記した。ただし、吉田小五郎氏の「吉田」（小判型朱）、「小五郎」（長方朱陰）については、その存在のみを記した。
- 一、「彩色の色数や様子」については、今後の丹緑本研究に資するために、丹緑の他に何色が加わっているのか、色の濃淡、塗りの丁寧さなどについて記した。彩色のないものについては「絵入」とのみ記してある。色が変色・褪色しているために色の識別が難しいものがあることをご了解いただきたい。
- 一、「版種に関する情報」については、無刊記本や残欠本が殆どであるので、版種の識別の手掛かりになると考えられる情報を付記したが、ほとんどは十分な検証を経ていないので、あくまでも参考情報とご理解いただきたい。

目 録 本 編

001,005 平治物語 3 卷存卷 1・2 2 冊 〔寛永 3 年〕刊 丹緑風絵入
雷文繫牡丹唐草文艶出縹色〔原〕表紙（色紙ほぼ剥落）（25.8 × 19.0cm） 外題：
ナシ 目録題：「平治物語卷第一（二）目録」 内題：「平治物語卷第一（二）」
版心：「平治卷一（二） 幾（①：「一」～「四十八」、②：「一」～「四十七」）」
版式：無辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高
さ約 21.5cm 印記：「吉田」「小五郎」。

*表紙の芯紙は神社境内・神輿巡行などを描いた丹緑風彩色の刷反故。丹緑黄紫茶の 5 色と胡粉で丁寧に塗る。目録一つ書き形式で 002 とは別版。

002 平治物語 3 卷存卷 1 1 冊 〔寛永 3 年〕刊 丹緑絵入
雷文櫛雨竜文艶出縹色原表紙（色紙ほぼ剥落・裏表紙新補素紙）（27.8 ×

18.8cm) 外題：左肩新補素紙題簽「平治物語 卷一」(朱) 目録題：「平治物語卷第一目録」 内題：「平治物語卷第一」 版心：「平治卷一 幾(「一」～「四十八」)」 版式：無辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高さ約 21.3cm 印記：末尾補修紙の上に印文を読めなくした陰刻方朱印があり、「吉田」「小五郎」を重ね捺し。

* 末尾補修済。表紙右上に朱で「寛永三年」とあり。丹緑黄の 3 色。目録は一つ書き形式ではなく 001 とは別版(彩色が単純でありこちらが先か)。表見返しに持ち主書入れあり。P46

003 平治物語 3 卷存巻 2 1 冊 [寛永 3 年] 刊 丹緑絵入

雷文繫牡丹唐草文艶出丹色原表紙(26.3 × 18.8cm) 外題：左肩子持杵刷題簽「平治物語 □」 目録題：「平治物語卷第二目録」 内題：「平治物語卷第二」 尾題：「平治物語卷第二終」 版心：「平治卷二 幾(「一」～「四十七」)」

版式：無辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高さ約 21.8cm 印記：「吉田」「小五郎」。

* 補修あり。丹緑黄の 3 色。目録は 002 と異なる一つ書き形式のものではあるが、丹緑彩色は 001 よりは単純で時期が早い。

004 平家物語 12 卷存巻 2 1 冊 [明暦 2 年] 刊 [丹緑] 絵入

後補転用弮繫牡丹唐草文艶出墨色表紙(26.3 × 18.4cm) 外題：ナシ 目録題：「平家物語卷第二目録」 内題：「平家物語卷第二」 版心：「平家卷二 幾(「一」～「[五十一]」)」 版式：四周単辺無界半葉 13 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭高さ約 21.4 cm 印記：「吉田」「小五郎」。前見返し左上に朱方印の色写りあり、位置と大きさからするとあるいは「奥文庫」印か。

* 丹緑黄紫の 4 色。色塗り箇所多く比較的丁寧。補修あるも比較的保存状態良し。

006 平治物語 3 卷存巻 2 挿絵丁抜萃 1 冊 [寛永 3 年] 刊 [丹緑] 絵入

後補転用茶色表紙(27.0 × 18.6cm) 外題：中央新補素紙題簽「平治物語丹緑繪集(寛永版)」(墨書) 内題：ナシ 版心：「平治卷二 幾(傷みにより不明)」 版式：無辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高さ約 22.2cm 印記：「吉田」(長方陰刻朱印に重ね捺し)「小五郎」(長

方朱印に重ね捺し) (判読不能の両印は 007 に同じ)

*丹緑黄青の 4 色。文字のみの丁で絵のある 8 丁を挟む。裏打補修され、順序に相当の乱れあり。P42

007 平治物語 3 卷存巻 2、3 合 1 冊 [寛永 3 年] 刊 [丹緑] 絵入

後補転用雷文襷雨竜文艶出丹表紙 (27.6 × 19.4cm) 外題: 左肩新補素紙題簽「平治物巻二、三」(朱筆) 内題: 首欠のためナシ 版心: 「平治巻二 (三)

幾 (「七」～以下傷みにより不明)」 版式: 無辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・丸読点付き 印面高さ約 22.4cm 裏打補修あり 印記: 「吉田」(長方陰刻朱印に重ね捺し) 「小五郎」(長方朱印に重ね捺し) (判読不能の両印は 006 に同じ)

*相当傷んだ本を補修しており、首尾などが欠ける他、挿絵部分が失われ裏打紙のみとなっている箇所が目立つ。残存する絵も部分的な欠落が目立つ。丹緑黄青の 4 色で、色がかなり淡い。

008 屋しま 2 巻 合 1 冊 [江戸初前] 刊 [丹緑] 絵入

艶出墨色原表紙 (24. 8 × 17.4cm) 外題: 左肩刷題簽「屋しま <上>」(12.7 × 2.8cm) 内題: 「屋しま上(下)」 版心: 「八嶋上(下) 幾 (「一」～「十六」、以下 2 丁付破損)」 版式: 四周単辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点、古い校合書入 匡郭高さ約 19.6cm 印記など: 見返し中央に「河内屋」、同左下に「休庵」と別筆墨書あり。「木下氏正路／蔵書之印」(長方朱)、印文未詳小丸朱印(朱)、「吉田」「小五郎」。 帙入。帙題簽「やしま 上・下」。

*末尾近く補修済。薄い丹緑の 2 色。無彩色の香川大学神原文庫 (13 - 51) 本 (存上) と同版か。寛永 12 年版舞の本の「やしま」とは別版。

009 八嶋 (外補) 2 卷存下 1 冊 [寛永] 刊 丹緑絵入

後補転用雷文繫蓮華唐草文艶出墨色表紙 (24.3 × 16.9cm) 外題: 左肩題簽剥落痕に「八嶋」と朱書 内題: (首欠) ナシ 版心: 「八嶋」(丁付と思われる部分意図的な墨汚れあり) 版式: 無辺無界半葉 10 行 漢字平仮名 印面高さ約 19.7cm 印記など: 「吉田」「小五郎」。

*表紙右肩に外題と同筆で「寛永」と朱書。絵の欠落と思われる白紙半葉あり。全体的に汚れており全丁裏打補修あり。丹緑黄の 3 色。最終丁裏に「(355) 丹緑本やしま」(図版あり) を掲載する古書店図録 (p 144) を貼付 (記述

と一致せず別本)。東京大学霞亭文庫蔵丹緑1冊本と近く、同本の第25丁以下を存す。

010 愛宕地藏之物語 3巻存下 1冊 承応2年(1653)刊 丹緑絵入

〔後補転用〕縹色表紙(27.3×18.1cm) 外題:左肩打付で「愛宕地藏之物語」と朱書 内題:「愛宕地藏之物語 巻下」 版心:「あたこ 下(第14丁「下」ナシ) 幾(「一」～「十四」)」 版式:四周単辺無界半葉11行(漢文部分9乃至10行) 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点(漢文部分は片仮名の振り仮名と返点) 匡郭高さ約21.2cm 刊記:「(破損)應二〔年(癸)〕(以下破損)」 印記など:「吉田」「小五郎」。 軼入。

*全体的に汚れており全丁裏打補修され、絵の欠落と思われる白紙半葉がある。丹緑黄の3色。表紙右肩に外題と同筆で「承應二年 丹緑本」と朱書。国会図書館蔵の承応2年(京)西田加兵衛版と同版。

011 〔ふしのひとあなさうし〕 2巻存下 1冊 〔寛永4年〕刊後印 後彩色絵入

後補転用茶色表紙(24.2×16.8cm) 外題:左肩新補子持粹刷題簽に「ふじの人あな下」と墨書 本の内側に「ふじの人あな 下」墨書した新しい支子色題簽を挟む 内題:ナシ 版心:「人(第38丁「人」と丁数ナシ) 幾(「廿三」～「四十四」)」 版式:無辺無界半葉10行 漢字平仮名、濁点・句点 印面高さ約20.8cm 印記など:「春翠/文庫」(朱方・中島仁之助)、「木下氏正路/蔵書印」(朱長方)、「吉田」「小五郎」。 軼入。

*補修済。挿絵極僅かに朱の後彩色あり。挿絵は元和寛永初刊古活字版の覆刻と思われる。

012 ふしのひとあなさうし 2巻存上 1冊 〔寛永4年〕刊後印 丹緑絵入

後補転用牡丹唐草卍繫文艶出丹色表紙(24.9×17.4cm) 外題:ナシ 内題:「ふしのひとあなさうし」 版心:「人(第2丁「人」ナシ、第10丁「人あ」) 幾(「一」～「廿一」、最終丁丁付部分破損)」 版式:無辺無界半葉10行 漢字平仮名、濁点・句点 印面高さ約20.8cm 印記など:裏見返しに鉛筆で「寛永四年板の後印本/二冊の上巻」とあり。「裕」(朱方)、「吉田」「小五郎」。

*補修済。丹緑の2色。挿絵は元和寛永初刊古活字版の覆刻カ。P129

013 えほしおり 2巻存下1冊〔寛永〕刊〔丹緑〕絵入

後補茶色表紙(23.9×17.3cm) 外題:左肩打付「えほしおり」(朱) 内題:「えほしおり 下」 版心:「烏帽子折 下幾(「一」～「二十六(以下破損)」)」

版式:無辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高さ約20.4cm 印記など:元共紙表紙の役割を担った前遊紙に「天明三年 鵜野崎／えほしおり／癸卯年六月」吉田谷五〔郎〕」と墨書。裏にも「鵜野崎村」・「百性^(ママ) 谷五郎」などとあり。「吉田」「小五郎」。

*全体的に汚れ、全丁裏打済。表紙右肩に「寛永」と外題同筆の朱書。丹緑黄の3色。

014 えほしおり 1冊〔寛永〕刊〔丹緑〕絵入

後補転用雷文襷雨竜文艶出濃縹色表紙(23.3×16.6cm) 外題:ナシ 内題:「えほしおり」 版心:「烏帽子折 幾(「一」～「廿八)」 版式:無辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名、濁点(ただし丁付「十五」以降は振り仮名なし) 印面高さ約20.5cm 印記など:「吉田」「小五郎」。

*一部挿絵中に本文あり。薄い丹緑の2色。015、上田市立上田図書館花月文庫本と同版カ。

015 〔えほしおり〕 1冊〔寛永〕刊〔丹緑〕絵入

後補転用雷文繫蓮華唐草文艶出墨色表紙(23.3×16.6cm) 外題:ナシ 内題:「えほしおり」 版心:「烏帽子折 幾(「五」～「十九)」 版式:無辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点(ただし丁付「十五」以降は振り仮名なし) 印面高さ約20.5cm 印記など:「吉田」「小五郎」。

*首尾欠、補修済。表紙右肩に「寛永十二年」と外題同筆の朱書があるが、十二年版ではない。丹緑紫黄の4色で色が薄く丁寧。014と同版カ。

016 太しよくわん 2巻 2冊 寛永12年(1635)刊 丹緑絵入

後補転用縹色表紙(24.7×17.5cm) 外題:ナシ 内題:「太しよくわん 下」(上内題部分欠) 版心:「大織冠 上(下) 幾(上:「二」～「三十一」、下:「一」～「十九)」 版式:無辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 印面高さ約20.5cm 刊記:「寛永十二年〈乙／亥〉二月吉日 開板之」 印記など:「吉田」「小五郎」。 帙入。帙題簽「大職冠^(ママ)〈寛永十二年／丹緑本〉」。P108

*上首1丁欠。丹緑黄の3色。017は異版。

017 たいしょくわん 2巻 合1冊 〔寛永〕刊 丹緑絵入

後補転用栗皮表紙(25.4×16.7cm) 外題:ナシ 内題:「たいしょくわん」

版心:「大織冠 幾(破損では判読不能も通し番号)」 版式:無辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 印面高さ約20.0cm 尾欠 印記など:落書き多く、「寛保三年〔亥〕／七月十日」、「寛保三年七月九日吉日」、「谷地かうや村」などとあり。「春翠／文庫」(朱方・中島仁之助)、「吉田」「小五郎」。

*全体に傷みが激しく補修済。丹緑の2色。国会図書館(本別13-21)と同版カ。016は異版。

018 いそさき〈柱〉 2巻 存下1冊 〔寛永〕刊 丹緑絵入

後補転用雷文襷菱花文艶出丹色表紙(24.4×17.0cm) 外題:ナシ 首尾欠

版心:「いそさき 幾(「十四」～「廿五」)」 版式:四周単辺無界半葉10行 平仮名中心、濁点・句点 匡郭高さ約19.8cm 印記など:裏見返しに「米沢〔桐〕町」などと墨書。「吉田」「小五郎」。 映入。帙内に昭和37年三都古書連合会大入礼会(目録番号491 いそさき物語 丹緑本)の札貼付。

*全体に傷み汚れが激しい。丹緑黄の3色で全体的に変色し、丹の銀化が目立つ。慶應義塾図書館蔵赤木文庫旧蔵の寛文7年(1667)松会刊本より古版カ。

019 〔はちかつき〕 1冊 〔寛永〕刊 古活字 〔丹緑〕絵入

後補墨色表紙(28.8×19.1cm)(現状台貼りで、元の大きさは24.0×17.2cm)

外題・内題:ナシ 版心:ナシ(最終と思われる丁の裏の綴代下部にのみ「四十一」とあり) 版式:無辺無界半葉10行 平仮名中心 印面高さ約21.0cm 印記など:「雲川／莊文／庫」(小田保夫)、「吉田」「小五郎」。 映入。帙題簽「はちかつき 〈古活字版／丹緑絵入本〉」。

*状態が悪い本の綴じを外し、一丁ずつ大きめの楮紙に貼り付けて、再び袋綴装にしている。29丁まではほぼ残存しているが、30丁以降は咽近くで破り取られているため、その残紙は詰めて貼り並べている。茶色原表紙の一部も貼付。末尾に中央に「はちかつき」と墨書した扉の断片を貼り付け、その上から古い綴糸の一部も貼り込んでいる。改装時の所蔵者と思われる小田保夫の書入れあり。淡い朱と黄色の2色で緑なし。帙内に、「六、はちかつき

「映入」と青インクの万年筆で書いた札状紙片、「吉田小五郎氏蔵／四八（朱）はちかづき 一冊／寛永中刊（絵入り）／新しい資料である」と墨書された、展示用の札らしき大きめの紙片、旧蔵者小田保夫が昭和18年8月17日に記した川瀬一馬『日本書誌学の研究』当該書部分の抜書1紙、同じく小田により「川瀬一馬氏書簡帖」と題簽に記された、川瀬からの葉書5枚他を納める小冊子1冊がある。川瀬一馬『増補古活字版の研究』掲載。

P163

020 〔まんちう〕 2冊 〔寛永〕刊 丹緑絵入

後補転用墨色地己繫牡丹唐草文艶出表紙（上冊：24.4 × 17.5cm、下冊：24.8 × 17.2cm） 外題：ナシ 内題：首欠不明 版心：「満中 幾（上：「二」～「十九」、下：「廿一」～「四十三終」）」 版式：無辺無界半葉10行 平仮名中心、振り仮名少々 印面高さ約20.3cm 印記など：「月明莊」、「吉田」「小五郎」。 映入。帙題簽「〈古活字版〉／満仲〈丹緑本〉 全二冊」。

*上冊に「落丁あり。／ 可惜。」との原稿用紙にペン書きの紙片が挟まれるように、上冊の首尾に欠丁があるが、比較的状态が良い。上冊は丹緑のみの2色で極簡単にあっさり彩色、下冊は丹緑黄紫の4色。無彩色の国会図書館蔵「幸若舞集」所収と同版カ。大きさ、彩色の違いからしても取り合わせ本。帙題簽に「古活字版」とあるも整版。月明莊印あるも『増訂版弘文荘待賈古書目録』に該当なし。021、022と同版のようだが版木の傷み具合からして最も後印カ。

021 まんちう 1冊 〔寛永〕刊 丹緑風後彩色絵入

〔後補転用白茶色地〕雷文襷菊花文墨刷表紙（24.8 × 17.3cm） 外題：左肩に朱で「まんちう」と直書 内題：「まんちう」 版心：「満中 幾（「一」～「四十二」、最終丁の丁付破損）」 版式：無辺無界半葉10行 平仮名中心、振り仮名少々（手書きもあり） 印面高さ約20.3cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

*全体に傷みが激しく補修済。表紙右肩に朱筆で「寛永」、見返し右端にも朱筆で「寛永頃 舞の本 假名活 丹緑本」とあるも、整版。朱と薄い緑の2色。朱のみの箇所もあり発色悪い。020、022と同版ながら020に次ぐ印カ。「南洋団体連合会原稿用紙」1枚が挟まれ、鉛筆で「リヤースン、コレクション

の／奈良絵本 満仲／の挿絵の内容はすべて本書のも／のと同様なり」とあるほか、丹緑本の形式は奈良絵本の影響があるらしいことなどを記す。

022 まんちう 1冊 〔寛永〕刊 〔丹緑〕絵入

〔後補転用〕茶色表紙（24.4 × 17.6cm） 外題：左肩雲母引題簽（15.8 × 3.4cm）に「まんちう 全」と墨書 内題：「まんちう」（補写部分） 版心：「満中幾（「二」～「四十二」、最終丁の丁付破損）」 版式：無辺無界半葉 10 行 平仮名中心、振り仮名少々 印面高さ約 20.3cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

帙入。帙題簽「まんちう 〈丹緑本〉」。

* 第 1 丁は江戸期の補写。全丁裏打ち補修済。挿絵が失われた箇所も目立つ。丹緑黄紫の 4 色で塗りが丁寧。020、021 と同版と思われるが、版面よりして最も早印カ。P112

023 格致算書 柴村盛之撰 3 卷存卷上 1 冊 〔明暦 3 年（1657）〕刊 朱彩色図入

縹色紙の剥がれた宿紙表紙（23.0 × 16.2cm） 外題：ナシ 序題：「格致算書序」 目録題：「格致算書卷上目録」 尾題：「格致算書卷上終」 版心：「算書幾（「上序一」・「上目録一」・「一」～「廿八」）」 版式：四周単辺（上辺中央に下を除く三辺双郭の見出し枠あり）、内容に応じた罫線で半葉行数不定 漢字平仮名 匡郭約 16.3 × 12.0cm 刊記など：「明暦三〈丁／酉〉歳臘月日 柴村藤左衛門尉／盛之」。印記など：「眞」（長方朱）、「牛」（方墨）、印文不明（丸墨）、「吉田」「小五郎」。

* 冒頭の「五行始生圖」・「陰陽國方圖」部分に朱彩色（銀化が激しい）があり、「塩盈虚圖」項に紙釘で止めた回転する円盤あり。日本学士院蔵の寛文 4 年版とは異版。

024 仁勢物語（外補） 2 卷存卷下 1 冊 〔江戸前期〕刊 絵入

後補転用縹色地菊花唐草文艶出表紙（26.3 × 18.02cm） 外題：左肩後補手書き子持枠題簽「仁勢物語 下」 内題：ナシ 丁付：最終丁裏左下単枠「下ノ三十四終」 版式：無辺無界半葉 12 行基本 平仮名 字高約 21.7cm 印記など：「□佐麻」（長方朱）、「吉田」「小五郎」。

* 寛永版の覆刻カ。

025 さころも 2巻存巻上 1冊 〔寛永〕刊 〔丹緑〕絵入

新補薄茶色表紙(24.5×17.2cm) 外題:左肩朱筆打付「さころも」 内題:「さころも」 版心:「さ衣 幾(「一」～「〔二十一〕」)」 版式:無辺無界半葉10行 平仮名中心 印面高さ約19.8cm 印記など:「吉田」「小五郎」。

*室町物語。状態悪く全丁裏打。挿絵を抜かれた新補紙の個所あり。表紙右上に朱筆で「寛永」とあり。落書き多し。丹緑黄の3色。026と同版。

026 さころも 2巻 合1冊 〔寛永〕刊 〔丹緑〕絵入

後補転用茶色表紙(24.8×16.9cm) 外題:ナシ(左肩に題簽剥落痕) 内題:「さころも」 版心:「さ衣 幾(「〔一〕」～「〔四十七終〕」)」 版式:無辺無界半葉10行 平仮名中心 印面高さ約19.8cm 印記など:「吉田」「小五郎」。

*丹緑黄の3色。025と同版。初3丁喉元近くを残し破損。P152

027 抛入花傳書 十一屋太右衛門撰 3巻 3冊 貞享元年(1684)刊 一部手彩色絵入

薄茶色原表紙(22.5×15.8cm) 外題:ナシ(中央の題簽殆ど摩滅し中下冊僅かに一部が残存) 序題:「抛入花傳書序」 目録題:「抛入花傳書巻上(中下)目録」 内題:「抛入花傳書上(中下)」 尾題:「抛入花傳書巻上(中)終(下は「抛入花傳書下之終」)」 版心:「抛入(序・上(中下)) 幾(上:「一」(序二まで)～「十六終」、中:「一」「又一」「二」～「十四終」、下:「乙」「二」～「十五」)」 版式:四周単辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 匡郭約17.3×12.3cm 刊記など:「貞享元〈甲／ 子〉林鐘上澣日／ 江戸神田新草屋町／ 西村半兵衛／ 洛三條通／ 同市郎右衛門／ 坂上勝兵衛」(西村半兵衛は年記より前に位置) 印記など:「吉田」「小五郎」。3冊とも見返し右下に旧蔵者名か何かの墨減あり、また中下冊裏見返しにも旧蔵者名墨書があるも重ね書きで判読不能。

*抛入花版本の初例。十一屋太右衛門は二代池坊専好の弟子。挿絵草花部分に緑朱他数色の丁寧な手彩色あり。販売時からの彩色の可能性あるカ。東京大学総合図書館・国文学研究資料館蔵本は、書肆は「京姉小路通堀川東エ入町／中川茂兵衛蔵版」とのみあり。同版ながらこれの方が後印らしい。

028 釈迦如来御本地 3巻欠上 2冊 明暦2年(1656)刊 丹緑風彩

色絵入

縹色地小石畳文艶出〔原〕表紙(25.5×18.0cm) 外題：ナシ(左肩題簽剥落痕あり) 内題：「釈迦如来御本地 中(下)」 版心：「釈迦本地中(下) 幾(中：「一」～「十八」、下：「一」～「廿二」)」 版式：四周単辺無界半葉 13行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 20.2×16.2cm 刊記など：「明暦式(丙／ 申) 年初春吉日開板」 印記など：「吉田」「小五郎」。

＊相当の疲れ本で傷みが激しい。029と同版。丹緑黄三色で彩色するが、色が薄く塗る面積も少ない。国書DB「＜明暦二版＞」は「横山重(中下巻二冊)」のみ。本書に横山旧蔵を示す痕跡なし。無彩色の早稲田大学図書館雲英文庫本上1冊・同九曜文庫本、東京大学図書館北条霞亭文庫本・東北大学図書館狩野文庫本の中下2冊本は同版カ。

029 釈迦如来御本地 3巻存下 1冊 明暦2年(1656)刊 丹緑絵入

〔後補転用〕丹色地雷文繫牡丹唐草文艶出表紙(25.3×18.0cm) 外題：左肩子持梓刷題簽「〈新／板〉しやかの本地 〔下／ゑ入〕」 内題：「釈迦如来御本地 下」 版心：「釈迦本地下 幾(「一」～「廿二」)」 版式：四周単辺無界半葉 13行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 20.5×16.1cm 刊記など：「明暦式(丙／ 申) 年初春吉日開板」 印記など：ナシ。 帙入。 帙題簽「釈迦如来御本地 〔下〕」。

＊比較的状态が良いが第4丁に破損(補修済)あり。028と同版ながら、こちらの方が早印。

030 〔日蓮上人〕註画讃 5巻 3冊 天和3年(1656)刊 〔菱川師宣〕絵入

濃縹色地卍繫牡丹唐草文艶出原表紙(27.1×18.7cm) 外題：左肩子持梓刷題簽「〔絵／入〕日蓮一代記 下」(上一部存、中欠)、題簽左に素紙題簽を貼り「〔絵／入〕日蓮一代記ノ上(中・下)」と墨書 内題：「註画讃」(上：目録題と九丁目裏「註画讃卷第二」、中：「註画讃卷第三(四)」、下：「註画讃卷第五」(三十五丁表)) 版心：「日蓮 幾(上：「一」～「十五」、中：「十六」～「廿九」、下：「卅」～「四十二」)」 版式：四周単辺無界半葉 15行(本文) 漢字平仮名、振り仮名・濁点 匡郭約 22.0×16.6cm 刊記など：「天和三(癸／ 亥) 三月吉日／ 江戸大傳馬町三丁目／ 鱗形屋板」 印記など：「砂

〔塚〕村西川前〔 〕／ 朝倉持主」と墨書。

＊刷の良い本だが疲れ本。上冊に破損（補修済）あり。国書 DB に東博、横山重とあるが、本書が横山旧蔵である痕跡はない。他に館山市立博物館本。

031 うすゆき物語 2巻存上 1冊 〔寛永9年（1632）刊 〔丹緑〕絵入

〔後補転用〕濃縹色地己繫牡丹唐草文艶出表紙（25.0 × 17.5cm） 外題ナシ（左肩題簽剥落痕） 内題：「うすゆき物語上」 尾題：「うすゆきもの語上終」 版心：「薄雪上 幾（「一」～「廿七終」）」 版式：無辺無界半葉 10 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 印面高さ約 20.5cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

帙入。帙題簽「〔丹／緑〕薄雪物語 上」。

＊比較的保存状態良好だが、挿絵に破損箇所あり。両面に墨書ある紙片を挟み込む。丹緑黄の3色で塗りが丁寧。寛永期の整版丹緑本は寛永9年と同13年版があるが、13年版は補刻丁の存するもの。国会図書館の13年版と比較して9年版と推定。032と異版。P179

032 うすゆき物語 2巻存下 1冊 〔寛永9年（1632）以降〕刊 丹緑絵入

〔後補転用〕墨色表紙（裏は原墨色地雷文繫唐草文艶出（23.5 × 16.7cm） 外題ナシ 内題：「うすゆき物語下」 尾題：「うすゆきもの語下終」 版心：「薄雪 下 幾（「一」～「三十」）」 版式：無辺無界半葉 10 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高さ約 19.7cm 印記など：「残花書屋」「賓南」（2種）（以上戸川残花）、「吉田」「小五郎」。 帙入。帙題簽「うすゆき物語 下」。

＊丹緑黄の3色。少々落書きあるも、比較的状態良好。寛永9年版に句点を加えて覆刻した無刊記本。031と異版。P179

033 四十二の物あらそひ 1冊 〔寛永〕刊 〔丹緑〕絵入

〔後補転用〕墨色地雷文繫牡丹唐草文艶出表紙（24.3 × 16.9cm） 左肩題簽剥落痕の上に「四十二の物あらそひ」と朱書 内題：「四十二の物あらそひ」

版心：「あらそひ 幾（「一」～「二十二終」、九、二十丁欠落）」 版式：無辺無界半葉 11 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高さ約 21.6 cm 印記など：新補見返し右肩に「本書ハ十一行本ニシテ挿画モ最モ古雅、四十二の物あらそひノ最古板也／絵入本百種ニ載セタルモノハ十二行本ニシ

テ挿画モ本書ヨリ脱化シタルモノナリ。／絵入本百種ノ方ハ假名ト句読ヲウツ繁ヲ避ケタリ」と朱書（外題と同筆カ）。「吉田」「小五郎。」

*全丁裏打済。丹緑黄の3色。補修の際に洗われたためか彩色は薄い。034、青山歴史村、東京大学駒場図書館蔵本などと同版。古活字12行本を11行に改め、挿絵を大きくして復刻したものカ。第9、20丁脱落、第13丁裏欠により、挿絵は1図のみ。

034 四十二の物あそび 1冊 〔寛永〕刊 〔丹緑〕絵入

〔後補転用〕茶色表紙（25.8 × 17.5cm） 外題ナシ 内題：「四十二の物あそび」 版心：「あそび 幾（「一」～「二十」以下2丁欠）」 版式：無辺無界半葉11行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高さ約21.6cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

*水濡れ本で状態は非常に悪い。丹緑黄の3色。033と同版。

035 たむらのさうし 2巻 合1冊 正保3年（1646）〔京〕杉田勘兵衛尉刊 絵入

〔後補転用〕濃縹色地文不明艶出表紙（27.3 × 17.7cm） 外題：左肩新補子持杵刷題簽に「田村の草子 上下」と墨書 内題：「たむらのさうし 上（下）」（上は補写部分） 版心：「田村上（下）（最終丁のみ「終」を付す） 幾（上：「一」～「三十二」、下：「一」～「二十九」）」 版式：無辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高さ約20.2cm 刊記など：本文末尾の下29丁表を裏見返しとし、その左下に「正保三歳三月吉日／杉田勘兵衛尉新板」と子持杵木記あり。 印記など：新補見返し右肩に貼紙し、「○田村の草子 上下二冊／正保三年版」と墨書。その左に「この本は水谷不倒氏自らつくろひたり／筆蹟も同氏なり」と墨書。「水谷文庫」（水谷不倒）、「吉田」「小五郎」。

*水濡れ本で状態はよくない。表紙右肩に「正保三年」と朱書。第1丁表、18丁（裏の白紙に「此所繪一枚ある／へし」と墨書した紙片貼付）、下部欠落部分などは補写。挿絵の一部に朱の後彩色あり。国文学研究資料館蔵2冊本は同版の無刊記本らしい。

036 くまの、ほんち 3巻存上 1冊 〔寛永末正保頃〕刊 丹緑絵入

後補の縹色の表皮がほぼ剥がれた灰色の包表紙（26.7 × 18.0cm） 外題：ナ

シ 内題:「くまの、ほんち上」 版心:「ほんち上 幾(「一」～「四」、「上ノ五」「上ノ六七」「上ノ八」～「上ノ〔卅八〕)」 版式:四周単辺無界半葉 11 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 21.4 × 16.0cm 印記など:表裏見返しに「下□善治ろ」と墨書、印記「吉田」「小五郎」。

*疲れ本で状態はあまりよくない。丹緑黄紫の4色で彩色の状態は良い。037と同版だが摺は早い。038も同版だがこちらには補刻あり。丹緑本の国会図書館蔵本(WB2-9)・上田市立上田図書館花月文庫蔵本(存上)、無彩色の大英図書館蔵本と同版カ。

037 くまの、ほんち 3巻存上 1冊〔寛永末正保頃〕刊 後彩色絵入
後補転用縹色地巴繫古代雲文艶出表紙(26.6 × 18.0cm) 外題:左肩打付「くまの、ほんち」(朱) 内題:「くまの、ほんち上」 版心:「ほんち上 幾(「一」～「四」、「上ノ五」「上ノ六七」「上ノ八」～「上ノ卅七」(最終丁欠))」 版式:四周単辺無界半葉 11 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 21.4 × 16.0cm 印記など:「吉田」「小五郎」。

*表紙右肩に「寛永」と朱書。彩色は褪せた朱のみ。036、038と同版だがやや後印。

038 くまの、ほんち 3巻 3冊〔寛永末正保頃〕刊 丹緑絵入
後補転用縹色繫文艶出表紙(色の濃淡と文様の異なる数種を混用)(27.8 × 18.4cm) 外題ナシ 内題:「くまの、ほんし中(…じ下)」 版心:「ほんち上 幾(「一」～「四」、「上ノ五」「上ノ六七」「上ノ八」～「上ノ〔卅八〕)・「ほんち中 中ノ幾(「一」～「〔十六〕)・「ほんち下(一部に「下」なし)下ノ幾(「一」～「廿三」))」 版式:四周単辺無界半葉 11 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 21.2 × 16.0cm 印記など:下冊見返しに「三宅蔵書(「三宅」朱方陰印)」、同裏見返しに「通真(花押)」・「比□山／ 福田寺」と別筆の墨書あるも、転用前の本の情報である可能性が高い。「吉田」「小五郎」。 帙入。帙題簽「くまの、本地〈寛永正保頃刊／丹緑本〉」(横山重筆)、帙の内に翻刻原稿裏面を利用したメモ書きあり。「熊野の本地、予は、三本を買へり。」と書き出し、三本を説明。本書は「(2)丹緑本 藍表紙 三冊(上巻、第一丁表落丁。全巻補修)／ 昭和二十二年十一月廿八日、神戸入江信夫氏の入札。二／ 千円〈弱〉也。」に該当。メモの右肩に「横

山氏の記録」とあり。

＊丹緑黄の3色。036、037と基本的に同版だが、上冊第1丁は覆刻による補刻であり、その他にもある可能性がある。P134

039 〔伊勢物語〕 2巻存下 1冊 承応2年(1653)(京)西村又左衛門刊 〔丹緑〕絵入

〔茶色〕表紙(表皮剥がれてほぼ芯紙のみ、裏表紙は刷題簽の痕跡があり、後補転用か)(28.0×19.5cm) 外題・内題ナシ 版心：中央やや下に「下幾(「一」～「卅三」)(挿絵は別丁付)」 版式：無辺無界半葉12行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点、段番号・傍注などあり 印面高約21.2cm 刊記など：「承應癸巳仲春吉旦／〈寺町誓願寺前〉／西村又左衛門重新板」(第33丁表本文に続けて子持梓木記)、同丁裏に「近代以狩使事為端之本」で始まる「戸部尚書」(藤原定家)の武田本奥書の一部を刻す。 印記など：表紙右下に「小山／□□」、見返しに「竹原村持主勝□」・「□川村□□□」、裏見返しに「晴心□□」・「〔判読不能旧蔵者署名〕」等各別筆の墨書あり。「吉田」「小五郎」。

＊薄い丹緑黄紫の4色。かなりの疲れ本で、版心もぼろぼろで判読できない部分が多いが、摺は比較的良い。挿絵は丁の表裏形式で、片面を破り去った部分が目立つ。P38

040 伊勢物語絵抄〈版心〉 3巻存上 1冊 〔元禄6年(1693)〕刊 後彩色絵入

白茶色地萌黄色信夫文刷原表紙(破損激しく模様紙は上冊上三分の二程度存)(26.7×18.8cm) 外題：中央題簽剥落痕 内題：初丁「伊勢物語作者之説(振り仮名あり)」 版心：「伊勢物語絵抄 幾(「一」～「二十」)」 版式：四周単辺無界二階本本文半葉12行 匡郭約(22.4×16.4cm、上から6.7cmに区切線)

漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点、段番号・傍注など 印記など：印文不明陰刻方墨印。

＊本文全頁上段左側に挿絵があり、まま質の悪い薄い朱を彩色する。かなりの疲れ本。表裏の見返しに落書きあり。文書袋には「伊勢物語／作者之説」とあり。

041 もんがく 2巻 合1冊 〔明暦4年(1658)〕〔京〕山田市郎兵衛刊 〔後彩色〕絵入

後補転用茶色表紙 (26.5 × 17.9cm) 外題：左肩題簽剥落痕の位置に「もんがく」(朱) 内題：「もんがく 上」 版心：ナシ 版式：四周単辺無界半葉 14 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 21.1 × 16.2cm 刊記など：最終丁表本文の後に「(上部破損) 戊九〔月〕吉日 山田市郎兵衛開板」とあり。

印記など：表紙右下に「宝性院／ 永全 (花押)」、裏表紙に「御守護／法主敬白／息災延命所法」などと墨書あるも、転用前の本の情報である可能性が高い。「吉田」「小五郎」。

*全体に傷み激しく全丁裏打。表紙右肩に「寛永十一年」と朱書あるも非。薄い緑黄の 2 色のみ。下巻首 2 丁の他半葉単位の欠落複数箇所。無彩色の国立国会図書館蔵明暦 4 年版本と同版カ。

042 月日の御本地 2 巻 1 冊 〔寛永頃〕刊 丹緑風後彩色絵入

後補転用紺鼠色地銀泥下絵表紙 (24.7 × 17.3cm) 外題：左肩に「月日の御本地」(朱) 内題：「月日の御本地」 版心：「月日 幾 (「一」～「十八」)」

版式：無辺無界半葉 11 行 漢字平仮名 印面高約 20.0cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

*表紙右肩に「寛永十」と朱書。末尾 14 丁を欠く。質の悪い朱緑黄の 3 色。無彩色の京都大学附属図書館大惣本と同版カ。

043 ～ 6 太平記理尽盡圖經 5 卷欠卷 5 4 冊 〔明暦 2 年 (1656)〕刊 後彩色絵入

薄縹色原表紙 (26.3 × 18.5cm) (巻 1 表色紙剥落、巻 4 表表紙欠) 外題：巻 2、3 の左肩に題簽剥落痕 目録題：「太平記理尽盡圖經巻第一 (～四) 目録」

内題：「太平記理尽盡圖經巻第一 (～四)」 版心：双花魚尾、「太平圖經 (目録 (②③「目」、④この部分ナシ)) 一 (～四) 幾 (目録本文通し番号、①：「一」～「二十四」、②：「一」～「二十五」、③：「一」～「二十六」、④：「一」～「二十三」)」 版式：四周双辺無界半葉 12 行 漢字片仮名、振り仮名・濁点 匡郭約 21.9 × 15.5cm 印記など：「吉田」「小五郎」。小口書き「太 一 (～四)」。

*水濡れによる痛みあり。朱引あり。図の部分に朱、緑、水色、白などを部分的に彩色。

047 七人びくに 3 巻存上 1 冊 〔寛永 12 年 (1635)〕刊 〔後彩色〕絵入

後補転用斜石畳文艶出丹表紙(25.2 × 17.7cm) 外題:左肩題簽剥落痕 内題:
「七人びくに」 版心:「七尼 上幾(「一」～「三十三」)」 版式:無辺無界
半葉10行 漢字平仮名、濁点・句点 印面高約20.5cm 印記など:第1丁
表右下「□頼」(方朱陰)のみ。

*挿絵に朱を加える。048及び、京都大学・北海道大学図書館蔵の寛永12
年版と同版カ。

048 七人びくに 3巻存上 1冊〔寛永12年(1635)〕刊 丹緑絵入
後補転用縹色表紙(22.7 × 17.3cm) 外題:新補素紙題簽に「〈かな／草紙〉
七人比丘尼」(墨) 内題:「七人びくに」 版心:「七尼 上幾(「一」～
「三十三」)」 版式:無辺無界半葉10行 漢字平仮名、濁点・句点 印面高
約20.5cm 印記など:題簽と帙題簽の右下に「□」「楓」の朱小印。「吉田」「小
五郎」。 帙入。帙題簽「かな草紙七人比丘尼」(題簽同筆)。

*丹緑黄紫の4色。047、京都大学・北海道大学図書館蔵の寛永12年版と同
版ながら、丹緑本は本書のみ。化粧裁ちを除くと彩色を含め状態は良い。昭
和47年2月9日付の思文閣松原店の納品・請求書あり。P182

049 親鸞上人記 2巻 1冊〔延宝頃〕刊 後彩色絵入
新補素紙表紙(27.4 × 18.8cm) 外題:中央打付「親鸞上人記 全」(墨) 内題:
「親鸞(しんらん)上人記 卷之上(下)」 版心:「しんらん上(下) 幾(上
「一」～「八」、下「一」～「七」)」 版式:四周単辺無界半葉16行 漢字平
仮名、濁点 匡郭約22.1 × 16.4cm 刊記など:「延寶 歳應鐘吉辰 〈新橋
日比谷横町〉 龜屋新板」 印記など:裏表紙に「翠巖屋」、前遊紙表に「善之助」、
同裏に「弥七」「善内」「善之介」「善九郎(墨減)」「清七□(墨減)」、最終
丁袋破れの内側に「天明〈庚／辰〉二月吉祥日／信州仲伊奈郡 有賀善之助
／／ 箕輪郷南殿村住人」、裏見返しに「孔碩詩屋／ 蔵書」などと墨書。

*菱川師宣風の挿絵に変色した朱を加える。

050 景清 2巻 2冊〔寛永〕刊 丹緑絵入
後補転用茶色表紙(24.7 × 17.3cm)(見返しに残る紙片より原表紙は薄縹色
と判明) 外題ナシ 内題:「景清上(下)」 版心:「景清上(下) 幾(上「一」
～「廿七」、下「一」～「廿九終」)」 版式:無辺無界半葉10行 漢字平仮名、
振り仮名、濁点少々 印面高約20.5cm 印記など:上冊裏見返し裏に旧蔵者

墨書あり。「吉田」「小五郎」。 帙入。帙題簽「景清 〈寛永丹緑本〉」。

*保存状態良好。彩色は丹緑のみ。国文学研究資料館蔵寛永9年中野氏道也版、あるいは同蔵寛永12年版の覆刻カ。大洲市立図書館矢野玄道文庫（貴63-4）と同版カ。P86

051 高館〈版心〉 2巻存下 1冊 〔寛永〕刊 丹緑風彩色絵入

無表紙（24.8 × 17.1cm） 首欠により内題ナシ 版心：「高館 幾（「〔廿〕」～「〔四十五〕」） 版式：無辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名 印面高約19.6cm 尾欠により刊記不明 印記など：「吉田」「小五郎」。 帙入。帙題簽「たかたち 古活字版丹緑本」（横山重）。帙内に横山筆で「此本古活字版ではない。一度、古活字版として／発表し、次に整板本として発表す。」とのメモがあり、「欧文古書部専用」と印刷された価格札に「丹緑本、／寛永版」や「¥60.00」とあり。

*疲れ本で保存状態不良。丹緑の顔料の質が悪い。052と同版。国文学研究資料館蔵寛永12年版「舞の本」所収本や慶應義塾図書館蔵「[舞の本] 27種」所収本とは異版。

052 高館〈版心〉 2巻存下（首尾欠） 1冊 〔寛永〕刊 丹緑絵入

後補転用濃縹色地卍繫〔牡丹〕唐草文空押表紙（24.7 × 16.9cm） 外題：左肩題簽剥落痕 首欠により内題ナシ 版心：「高館 幾（「〔廿一〕」～「〔四十八〕」）」 版式：無辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名 印面高約20.2cm 尾欠により刊記不明 印記など：「吉田」「小五郎」。帙入。帙題簽「高館 丹緑本」（横山重カ）。

*丹緑黄の三色。051と同版。

053 高館〈版心〉 2巻存上（首尾欠） 1冊 〔寛永〕刊 〔丹緑〕絵入

後補転用濃茶色地雷文繫牡丹唐草文艶出表紙（24.3 × 17.0cm） 外題：左肩題簽剥落痕に「高館」（朱） 首欠により内題ナシ 版心：「高館 上幾（「〔三〕」～「〔十八〕」）」 版式：無辺無界半葉10行 漢字平仮名交じり、振り仮名・濁点・句点 印面高約20.0cm 印記など：末尾に「吉田」「小五郎」。 帙入。帙題簽「高館 〈丹緑本〉」（横山重筆カ）。

*表紙右肩に同筆で「寛永」と朱書。丹緑の2色。緑色褪せし緑青焼けも目立つ。保存状態不良により裏打。051、052とは異版で、無彩色の広島大学

図書館蔵本、国文学研究資料館蔵寛永12年版「舞の本」所収本、慶應義塾図書館蔵「[舞の本]27種」所収本などと同版カ。

054 「かまた」 1巻 1冊 [寛永]刊 [丹緑]絵入

後補転用濃茶色地雷文繫牡丹唐草文艶出表紙(24.2×17.0cm) 外題：左肩題簽剥落痕に「かまた」(朱) 内題：初行右に3字下げで「かまた」と墨書
版心：「鎌田 幾 (「一」)～「十六」)」(痛みにより殆ど欠落) 版式：無辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 印面高約20.3cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

*保存状態不良により裏打済。表紙右肩に外題同筆で「寛永」と朱書。薄い丹緑の2色。挿絵の一部に落書きあり。

055 ふえのまき 1巻 1冊 [寛永]刊 丹緑絵入

[後補転用] 墨色地[雷文繫唐草文]艶出表紙(25.1×17.2cm) 外題：ナシ(左肩に題簽剥落痕あるか) 内題：「ふえのまき」 版心：「笛巻 幾 (「一」～「十六」)」 版式：無辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 印面高約21.1cm 印記など：見返し右下に「増刑山／主武純」と墨書。「神原家図書記」(長方墨、神原甚造(1884-1954))、「吉田」「小五郎」。帙入。帙題簽「ふえのまき」。

*疲れ本だが、刷は良好。丹緑茶黄の4色。無彩色の国文学研究資料館蔵「舞の本」([寛永12年]刊)、国会図書館蔵「[幸若舞集]」、慶應義塾図書館蔵「[舞の本]27種」と同版ながら、本書の方が早印カ。P81

056 あかし物かたり 2巻存上 1冊 [正保]刊 丹緑風彩色絵入

縹色[原]表紙(24.7×17.2cm)(裏表紙色紙欠) 外題：左肩の文字が摩滅したらしき子持粹刷題簽に「あかし物語 上」(墨) 内題：「あかし物かたり 上」 版心：「あかし上 幾 (「一」～「二十二」)」 版式：四周単辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約19.9×15.5cm 印記など：表裏の見返しに「享和三〈癸／亥〉歳／下総國香取郡」、「原新田／八木氏／治郎右門」、「下総國香取郡木内之庄／神生村」、「寶暦六〈丙／子〉十月廿五日」などと墨書。「吉田」「小五郎」。帙入。帙題簽「〈丹／緑〉あかし物語 上」。

*疲れ本だが、刷は良好。落書き多し。丹黄の2色。

057 あかし物かたり 2巻存下 1冊 〔寛永〕刊 〔丹緑〕絵入

後補紺鼠色地〔卍繫牡丹唐草文〕艶出原表紙(25.5×17.2cm) 外題:左肩題簽剥落痕 内題:「あかし物かたり下」 版心:「あかし下 幾(「一」~「廿七終」)」 版式:無辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高約18.0cm 印記など:「裕」(方朱)、「吉田」「小五郎」。

*保存状態比較的良好で刷も良い。濃い丹緑黄の3色。058と同版ながら早印。

058 あかし物かたり 2巻存下 1冊 〔寛永〕刊 〔丹緑〕絵入

墨色地〔雷文襷雨竜文〕艶出原表紙(25.1×17.2cm) 外題:左肩に「あかし物かたり 丹緑本」(朱) 内題:「あかし物かたり下」 版心:「あかし下 幾(「一」~「廿七終」)」 版式:無辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高約18.0cm 印記など:見返し中央に「あかし物／かたり下」と墨書。「大隈氏／蔵書記」(長方朱)、「吉田」「小五郎」。

*右肩に「共二」と墨書。薄い丹緑黄紫の4色。保存状態良好。057と同版ながら後印。

059 もんがく 2巻存上 1冊 〔寛文10年(1670)(江戸)鱗形屋〕刊 後彩色絵入

縹色原表紙(27.1×19.0cm) 外題:左肩子持杵刷題簽「もんかく 上」 内題:「もんがく 上」 版心:「文学 上 幾(「一」~「九」)」 版式:四周単辺無界半葉14行 平仮名中心、濁点・句点 匡郭約22.7×15.9cm 印記など:見返しに「仙田／喜兵衛／西名」などと墨書。

*薄い緑と黄の2色をわずかに彩色。国立公文書館蔵(204-0053)と同版。表裏を中心に状態が悪い。

060 ゆりわか大臣 1冊 〔寛永〕刊 丹緑絵入

墨色〔原〕表紙(27.1×19.0cm) 外題:左肩題簽(文字摩滅して読めず) 内題:「ゆりわか大臣」 版心:「百合若 幾(「一」~「廿三」)」 版式:無辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 印面高約20.3cm 印記など:「栗田氏／珍藏記」(栗田元次)、巻首に重ね捺して印文不明の長方朱印2顆。

*丹緑黄紫の4色で塗方が丁寧。やや虫損。国文学研究資料館蔵『舞の本』(寛永12年刊)は本版の覆刻カ。P116

**061 四しやうのうた合（外） 4巻2冊存上 1冊 〔元和寛永〕刊 古
活字 丹緑絵入**

濃縹色地麻葉繫文艶出原表紙(27.8 × 19.3cm) 外題:左肩四周単辺刷題簽「四
しやうのうた合〈破損〉」 内題:「うをのうた合」・「けだ物の哥合たいぐ三
はんしやくわう」 版心:存在するも文字が小さく判読不能 版式:無辺
無界半葉 12行 漢字平仮名、濁点 印面高約 23.5cm 印記など:「吉田」「小
五郎」。比較的新しい塗箱入り。

*丹緑黄の3色。題簽下部の破損は、端本であることを隠すための意図的な
ものか。P167

**062 三人ほうし 2巻2冊 〔元和寛永〕刊 〔丹緑〕絵入（色無し挿絵
混在）**

後補刷毛引表紙(27.8 × 19.3cm) 外題:左肩後補題簽「三人法師 上(下)
／〈正儀之事〉」(鉄斎筆) 内題:「三人ほうし上(下)」 版心:「三人ほう
し上(下) 幾(上「一」～「廿三」、下「一」～「廿一」)」 版式:無辺無
界半葉 10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高約 20.5cm 印記
など:上冊表紙右肩に鉄斎筆「貳冊／ 画禪〔書〕院／ 蔵」との緑色紙片
貼付。上冊裏見返中央に「平安／鉄斎蔵」、下冊裏表紙左端に「平安樺蔭館」
と墨書。「富岡文庫」整理票挟み込み。「富岡百鍊」(方朱)・「鉄叟」(方朱)・
「鉄史」(方陰朱)・「富岡氏蔵書記」(長方朱)・「鉄叟」(楕円陰朱・題簽)(以
上富岡鉄斎筆)、「木下氏正路／蔵書之印」(長方朱)、「吉田」「小五郎」。帙・
桐箱入。帙題簽「〈古／板〉三人法師〈貳冊〉」(鉄斎筆)、帙右下「鉄老齋」(長
方朱印)、桐箱題簽「〈古／板〉三人法師」(鉄斎筆)。

*全丁裏打済。丹緑黄の3色。上下で彩色の様子が異なり、共に無彩色や色
の薄く少ない挿絵が混在するのは冊のみならず丁をも取り合わせた故か。上
見返に墨の、下裏見返に朱の鉄斎考証書入れあり。無彩色の新城図書館ふる
さと情報館牧野文庫本・京都府立京都学歴彩館本と同版カ。

063 大坂物語 2巻合1冊 正保3年(1646)刊 絵入

縹色〔原〕表紙に薄茶色地七弁花文保護紙貼付(26.7 × 18.5cm) 外題:左
肩打付「大坂物語 上下」(墨) 内題:「大坂物語 上(下)」 版心:「大坂
上(下) 幾(上「一」～「三十六終」、下「十八終」)」 版式:四周双辺

無界半葉 12 行 漢字平仮名・振り仮名・濁点・句点 匡郭約 20.3 × 15.8cm

刊記など：「正保三歳〈丙／戊〉霜月吉辰日」

*表紙右肩に「正保二年^(ママ)板」と墨書した紙片貼付。疲れ本で虫損あり。

064 大坂物語 2 卷存下 1 冊 〔寛文 8 年 (1668)〕 刊 後彩色絵入

表紙欠 (26.9 × 18.4cm) 内題：「大坂物語 上」 版心：「大坂上 (下) 幾
〔「一」〕～〔「二十四」〕」 (二十五丁欠) 版式：四周単辺無界半葉 14 行
漢字平仮名・振り仮名・濁点・句点 匡郭約 22.0 × 16.3cm

*彩色は濃い黄色のみ。汚れ傷み本で全丁裏打済。最終丁欠。早稲田大学図書館蔵本 (リ 05 05309) と同版カ。

**065 大坂物かたり 2 卷合 1 冊 〔延宝 (1673 ～ 81) 頃〕 〔江戸〕 うろこ
かたや刊 後彩色絵入**

縹色〔原〕表紙ながら色紙はぼ欠落 (26.5 × 18.0cm) 外題ナシ 内題：「大
坂物かたり 上 (下)」 版心：「大坂ものかたり 幾 (「一」～〔「三十四」〕)
(十八丁までが上) 版式：四周単辺無界半葉 16 行 漢字平仮名交じり、振
り仮名・濁点 匡郭約 21.5 × 16.7cm 刊記：「うろこかたや」 印記など：
見返しに「四癡齋珍藏」と朱書。「蕃／視」(丸朱)。

*疲れ本。表紙に「四癡齋蔵本／ うろこかたや板」と墨書。彩色は薄い黄
色のみ。柳沢昌紀氏蔵本と同版か (同氏『『大坂物語』延宝頃うろこがたや
版の挿絵〕(『中京大学図書館学紀要』39、2019 年 3 月) 参照)。

066 いつみ 1 冊 〔寛永〕 刊 丹緑絵入

濃茶色地雷文繫花唐草文艶出〔原〕表紙 (26.5 × 18.0cm) 外題：左肩題簽
剥落痕 内題：「いつみ」 版心：「いつみ幾 (「一」～「廿八終」)」 版式：
無辺無界半葉 10 行 漢字平仮名・振り仮名・濁点 印面高約 20.4cm 印記
など：見返しに「元禄拾年」、本文途中に「元禄拾五年」の書入れあり。「吉田」小
五郎」印。 帙入。帙内に横山重と吉田のメモあり。帙題簽「舞の本 和泉
〈寛永ころ刊／ゑどり本〉」(横山重筆)。

*疲れ本で、挿絵を中心に補修あり。丹緑黄紫の 4 色。067 と同版ながらこ
ちらが早印。横山メモで 067 について言及。

067 いつみ 1 冊 〔寛永〕 刊 丹緑絵入

後補茶色地葵唐草文空押表紙 (23.8 × 17.0cm) 外題：左肩題簽に「いつみ〈南

畝奥書〉全」と墨書 内題:「いつみ」 版心:「いつみ幾(「一」～「廿八終」)」

版式:無辺無界半葉 10 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 印面高約 20.4 cm 印記など:裏見返し右下に、「文化丁丑八月廿二日於〔曝〕書／□収得

杏花園(「杏園」(朱方陰)印)。「南畝／文庫」(方朱、太田南畝)、「不羈齋／図書記」(長方朱、秋山恒太郎)、「黒川真頼蔵書」(長方朱)、「陰山／蔵書」(方朱、陰山金四郎)、「富永家／図書印」(長方朱)、「黒川／真頼」(朱丸)、「黒川真道蔵書」(朱長方)、「東京師／範學校／圖書印」(方朱)、「師範學校／拂下之印」(長方朱)、「吉田」「小五郎」。表紙右上に「物語」(朱丸、黒川家)。桐箱入。箱表書「舞の本 いづみ」。

*表紙右側貼紙に「〈いつみが城トモ云フ〉(朱)／舞の本／大珍本(朱)」とあり。表紙改装ながら状態良好。丹緑紫黄の4色。066と同版。P96

069 弘法大師御本地 3 卷欠上 合 1 冊 承応 3 年 (1654)〔京〕高橋清兵衛刊 丹緑絵入

後補転用濃茶艶出表紙(27.4 × 16.5cm) 外題:左肩題簽剥落痕 内題:「弘法大師御本地〔卷〕(虫損)之中」 版心:双下向花魚尾「弘法中(下) 幾(中「一」～「十九」(十一、十二、十八欠)、下「三」～「七之八」～「十一之二」～「十七」)」 版式:四周双辺無界半葉 10 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 20.2 × 14.2cm 刊記など:「承應三年〈甲／午〉五月吉日 高橋清兵衛 開板」 印記など:刊記の後に「佐田／成相寺／尊海」と墨書。「吉田」「小五郎」。帙入。帙題簽「弘法大師御本地〈中〉」。帙内に旧蔵者横山重の昭和 49 年の葉書とメモ及び、吉田の購入に関するメモ(専用原稿用紙)あり。

*丹緑紫黄の4色。補修済。無彩色の国会図書館蔵(854-26)本と同版ながら早印。横山のメモによると表紙は寛永版の『玉篇』のもの。

070 おひさかし 1 冊〔寛永〕刊〔丹緑〕絵入

〔後補転用〕墨色地雷文繁花唐草文艶出表紙(25.7 × 17.9cm) 外題ナシ 内題:「おひさかし」 版心:「笈探 幾(「一」～「廿五終」)」 版式:無辺無界半葉 10 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 印面高約 20.9cm 印記など:「月明荘」、「吉田」「小五郎」。帙入。帙題簽「おひさかし〈寛永中刊／丹緑本〉」(弘文荘)。

＊補修済のやや疲れ本ながら刷良好。丹緑黄の3色で塗り方が丁寧。10丁裏の挿絵欠落。国会図書館「舞の本」(本別13-28)、国文学研究資料館蔵「舞の本」(寛永12年刊)所収本(99-211-26)とは覆刻関係の異版。P92

071 〔弁慶物語〕 1冊 〔慶安〕刊 〔丹緑〕絵入

新補白茶色表紙(23.3×16.3cm) 外題：左肩打付「辨慶物語」(朱) 内題首欠によりナシ 版心ナシ 版式：無辺無界半葉12行 漢字平仮名、濁点・句点 印面高約20.7cm 印記など：「吉田」「小五郎」。 快入。帙題簽「弁慶物語 〈ゑどり本〉」(横山重筆カ)。

＊疲れ本で状態かなり悪く、首尾欠で途中の欠落もあり。表紙右肩に「丹緑本 假名活字本」と外題同筆朱書。薄い丹緑黄の3色。挿絵存1図。早稲田大学図書館蔵丹緑本(へ13 02691)と同版でやや早印カ。

072- 1 てんくのたいり 2巻存上 1冊 〔寛永〕刊 〔丹緑〕絵入

表紙欠(24.6×17.1cm) 外題ナシ 内題：「てんくのたいり上」 版心ナシ 版式：無辺無界半葉10行 漢字平仮名、濁点 印面高約20.0cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

＊取り合わせの可能性が高いので枝番号とする。背の貼紙に「てんぐのたいり 上 假名草紙」と墨書した茶色包紙あり(波多野巖松堂書店のものか?)。非常に淡い丹緑の2色。疲れ本で状態かなり悪く尾欠で途中の欠落・欠損もあり。弘前市立弘前図書館蔵本(W913・4・23)と同版カ。P148

072-2 〔てんくのたいり〕 2巻存下 1冊 〔寛永〕刊 〔丹緑〕絵入

新補薄縹色表紙(24.7×17.6cm)(新しい紙縫りで一カ所の結び綴じ) 外題ナシ 内題：首欠によりナシ 版心ナシ 版式：無辺無界半葉10行 漢字平仮名、濁点 印面高約20.0cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

＊取り合わせの可能性が高いので枝番号とする。非常に淡い丹緑黄の3色。上部水濡れの疲れ本で状態かなり悪く、首4丁尾1丁欠で途中の欠損もあり。弘前市立弘前図書館蔵本(W913・4・23)と同版カ。

073 〔しくれ〕 3巻存中 1冊 〔正保・慶安頃〕刊 丹緑絵入

後補転用縹色地偽金雲霞草文表紙(24.9×17.5cm) 外題：中央題簽剥落痕 内題ナシ 版心：「しくれ中 幾(「一」～「二十九」)」 版式：無辺無界半葉10行 漢字平仮名、濁点・句点 印面高約19.9cm 印記など：「春翠／

文庫」(方朱、中島仁之助)、「吉田」「小五郎」。

* 淡い丹緑黄の3色。国文学研究資料館(ラ3-32)の「しくれのえん」中十八の一丁とは同版。青山歴史村本(532)の『雨やどり』とは覆刻の関係(版心「しくれ」ナシ)。

074 西湖八景 1冊 寛文12年(1672)刊 後彩色絵入

後補転用縹色艶出表紙(25.5×18.7cm) 外題ナシ 扉題:「西湖八景」 版心: 上下白魚尾「八景圖 西湖 幾(「一」～「九終」)」 版式: 四周双辺無界半葉6行 漢詩部分: 返り点・縦点・送り仮名、和歌部分: 漢字平仮名散し書き 匡郭約19.7×16.0cm 刊記など:「寛文十二曆霜月吉日」 印記など:「中山氏/蔵書/之記」(方朱、中山久四郎)、「吉田」「小五郎」。

* 挿絵の一部にくすんだ朱を彩色。『国書総目録』に中山久四郎として見えるもの。東京都立図書館加賀文庫蔵本と同版カ。

075 山分 1冊 寛文6年(1666)京・河野道清刊 絵入

縹色原表紙(26.0×18.5cm) 外題: 左肩題簽剥落痕 内題:「山分」 版心: 「山分 幾(「一」～「四十四」)」 版式: 四周单辺無界半葉9行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約19.8×15.7cm 刊記など:「京東山六條新屋敷/寛文六年〈午〉十月日/ 萬や町河野道清 開板」 印記など: 見返しに「慶應三卯年二月求/ 木崎市郎兵衛」と墨書。未詳印(丸墨)。

* やや疲れ本。静嘉堂文庫・大東急記念文庫などと同版カ。

076 碁経 2巻2冊 〔江戸前期〕刊 朱墨套印本

後補紅色地幾何学小文〔緋〕表紙(28.3×19.3cm) 外題: 左肩後補題簽「碁経之上(下)巻」(墨) 内題: 上冊ナシ(首一丁欠カ)・「碁経之下巻」 版心: 「碁序二 一」・「上巻 二」・「上 三(～廿三終)」、「下巻 一(～「六」)」・「下 七(～「廿七終」)」 版式: (序) 無辺無界半葉9行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高約19.7cm (本文碁盤圖) 四周单辺、上欄注記 下冊の碁盤図と上欄注記が套印 印記など: 見返しに「謙誌」と署名する碁経の説明朱書あり、上欄に朱筆書入れ多し(「()」を使用)。上のみ未詳篆書印(丸朱)、両冊「島田/蔵書」(方朱)、「原田/謙印」(方朱陰、原田謙太郎(医学史家カ))、「吉田」「小五郎」。

* 下冊の朱は丹緑本風の発色。また下冊第一丁表の各字丸で囲んだ「碁盤路

圖」の四文字他に黄色手彩色あり。丁寧な補修あり。「古佐藤麟太郎追悼録用」原稿用紙の裏に、昭和27年に「神田大屋」で求めたことなどと記したメモを挟み込む。

077 丹前ひいなかた 井村勝吉撰 [3巻]存上 1冊 [宝永元年(1704)(京)藤屋治右衛門]刊 一部彩色図入

縹色原表紙(27.4×19.1cm) 外題：左肩原題簽「〈(二文字不明)〉丹前ひいなかた〔大成〕(以下破損)」 序題：「丹前ひいなかた序」(文中にも「丹前ひいなかた」) 版心：「上〇幾(「一」～「二十」)」 版式：四周単辺半葉毎に丹前図 匡郭約22.3×16.2cm 印記など：裏見返しに「金山十日町／染屋𠩺□□」と薄茶書入れ。表紙に柳亭種彦の『用捨箱』に引用された作品で、宝永元年刊行であることなどを記した朱墨筆の貼紙あり。末尾に「吉田」「小五郎」。

*序裏の丹前図は手彩色、裾の部分は合羽摺か。末尾に破損あり。

078 生下未分語 1冊 正保4年(1647)刊 手彩色図入

茶色〔原〕表紙(27.3×18.1cm)(裏表紙殆ど破損) 外題：中央・左肩に後補打付「生下未分」(墨) 内題：「生下未分語」 版心：中黒口双花魚尾中に下向黒魚尾「生下未分語 幾(「二」～「〔廿八〕)」(目録丁欠) 版式：四周単辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約19.9×15.5cm 刊記など：「正保四年」 印記など：至る所に「矢口和泉」と墨書。「吉田」「小五郎」。

*文中の図にくすんだ丹緑の手彩色。疲れ本。表紙は反故を利用。裏表紙のものとされる渋染の反故を挟み込む。正保3年版覆刻カ。龍谷大学図書館蔵(024.3/1015-W)、岡山県立図書館蔵(W180/130)と同版カ。

079 生下未分語 1冊(現状無綴)[江戸前期]刊 丹緑風彩色図入

無表紙(27.4×18.0cm) 外題ナシ 目録題：「生下未分語目録」 内題：「生下未分語」 版心：中黒口双花魚尾中に下向黒魚尾「生下未分語 幾(「一」～「〔廿七〕)」(最終丁欠) 版式：四周単辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約19.9×15.5cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

*丹緑黄の3色。傷み本。無表紙で綴じも切られた料紙をボール紙で挟む。正保3年、同4年、慶安元年の各版とも異版。

080 いつみしきふ〈外〉 横1冊 〔寛文〕頃刊 手彩色絵入

紺地銀泥雲霞草文銀砂子散し原表紙（16.2 × 23.9cm） 外題：中央丹色刷題簽「いつみしきふ」 見返し：銀砂子・小切箔散し 料紙：間似合紙 内題ナシ 版心ナシ 版式：無辺無界半葉13行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高約12.8cm 印記など：「吉田」「小五郎」。 帙入。帙左肩藍雲紙題簽に「〈丹緑本〉／いつみしきふ〈寛文頃刊〉」と墨書（横山重筆カ）。

＊銀泥・紅・墨・薄青・薄緑・薄茶・薄黄で奈良絵本風に彩色。状態良好。法華経江戸前期版本を表紙の芯に転用。料紙や彩色を写本風に仕立てた「御伽文庫」本の特装版。藤掛和美「御伽草子本の成立と寛文期」（『名古屋大学国語国文学』57、1985・12）参照。P160

081 十二段の草子（外補） 3巻合1冊 〔正保3年（1646）〕刊 丹緑絵入

後補転用茶色艶出表紙（24.8 × 17.5cm） 外題：左肩打付「十二段の草子〈丹緑〉本」（朱） 内題首欠によりナシ 版心：「上 幾（「二」～「十九終」）・「中 幾（「一」～「二十二終」）・「下 幾（「一」～「七」）」 版式：無辺無界半葉11行 漢字平仮名、濁点・句点 印面高約19.9cm 印記など：途中「大瀬藤□□」と書入れ。「月明／莊」（方朱、反町弘文莊）、「吉田」「小五郎」。

帙入。帙題簽に「十二段さうし 〈丹緑本〉」と墨書（横山重筆カ）。帙内に「三、十二段さうし 帙入 一冊」と万年筆書きした原稿用紙片あり。

＊丁寧な補修済。表紙右肩に同筆で「浄瑠璃姫物語」と朱書。首尾欠、落丁あり。丹緑黄の3色。墨落書き多し。2024年東京古典会483『浄瑠璃物語』（合1冊、丹緑本）と同版カ。P122

082 萬松院殿穴太記 2巻2冊 寛文2年（京）田中清左衛門刊 絵入

後補転用縹色表紙（26.7 × 17.2cm） 外題：既存の刷題簽の上に茶色の未使用題簽を貼付 目録題：「萬松院殿穴太記上（下）巻目録」 内題：「萬松院殿穴太記上（下）巻」 尾題：「萬松院殿穴太記上巻」・「萬松院殿穴太記下巻終」 版心：上白魚尾「穴太記上巻 幾（「一」～「三十終」）、「穴太記下巻

幾（「一」～「十九」）」 版式：四周単辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約20.5 × 14.4cm 刊記など：「寛文二載龍集壬寅十月上旬／洛陽室町通鯉山町／ 田中清左衛門刊梓行」 印記など：朱筆書入れや朱引などあり。

*挿絵に後筆で口紅を点した箇所あり。国文学研究資料館蔵（96-93）、静嘉堂文庫蔵（78 函 66 架）などと同版カ。

083 兵庫〈つきじま〉（外補） 1冊 〔寛永〕頃刊 〔丹緑〕絵入

後補転用茶色艶出表紙（24.2 × 16.9cm） 外題：左肩「兵庫〈つきじま〉」と朱筆直書き 内題首欠によりナシ 版心：「兵庫 幾（「廿二」～「四十五」）」

版式：無辺無界半葉 10 行 漢字平仮名、振り仮名（追加書入れあり）、濁点 印面高約 20.7cm 印記など：「吉田」「小五郎」。 軼入。

*丁寧な補修済。表紙右肩に同筆で「元和寛永」と朱書。首尾欠。薄い丹緑黄紫の 4 色。墨落書きあり。無彩色の国文学研究資料館蔵の寛永 12 年刊「舞の本」所収『つきしま』（99-211-6）と同版カ。

084 いはやのさうし 2 卷存上 1冊 〔寛文〕頃刊 〔丹緑〕絵入

後補転用縹色艶出表紙（24.6 × 17.1cm） 外題ナシ 内題：「いはやのさうし上」 版心：「上 幾（「一」～「廿五」）」（第 2、3 丁錯綴） 版式：四周単辺無界半葉 10 行 漢字平仮名、振り仮名、濁点、句点 匡郭約 20.4 × 15.0cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

*傷み・汚れ本で補修済。薄い丹緑黄紫の 4 色。挿絵部分二重匡郭。〔後彩色〕の国会図書館蔵本（か-58）、無彩色の京都大学附属図書館蔵大惣本（440/イ/2）と同版カ。

085 ほり川ようち 2 卷存下 1冊 〔寛永〕頃刊 丹緑絵入

黒色地雷文襷雨龍文艶出原表紙（24.5 × 17.4cm） 外題：左肩候補題簽「ほり川ようち下」（墨） 内題ナシ 版心：「堀河上 幾（「十九」～「卅四終」）」

版式：無辺無界半葉 10 行 漢字平仮名、極稀に振り仮名 印面高約 21.3 cm 印記など：両見返しや途中の余白に旧蔵者の書入れ、挿絵の落書きなどあり。横山重筆と思われる「八、ほりかわようち一冊」とのペン書き原稿用紙紙片を挟み込む。「吉田」「小五郎」。

*やや虫損や水染みがあるものの状態かなり良好。やや薄い丹緑黄の 3 色。

086 ふんしやうのさうし 2 卷存下 1冊 〔寛永〕頃刊 丹緑絵入

表紙欠（隅に破片あり、元濃茶色表紙か。外れた状態の色紙の剥がれた再生紙の芯のみの裏表紙を添えるが、本来のものとは思えない）（25.8 × 17.8cm）

外題ナシ 内題：「ふんしやうのさうし下」 版心：「ふんしやう 幾（「一」）」

～「〔三十一〕」〕」 版式：無辺無界半葉 11 行 漢字平仮名、極稀に振り仮名（後補書入れもあり） 印面高約 21.0cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

*状態極めて悪く、汚れの他欠丁や破損箇所も多い。薄い丹緑黄の 3 色。無彩色の四天王寺大学図書館蔵恩頼堂文庫本と同版カ。

087 うらみのすけ 2 巻存上 1 冊 〔寛永〕頃刊 〔丹緑〕絵入

墨色地雷文繫花唐草文艶出〔原〕表紙（24.7 × 17.8cm） 外題ナシ 内題：「うらみのすけ上」 版心：「上 幾（「一」～「廿六終」）」 版式：無辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・句点 印面高約 20.3cm 印記など：末尾に「吉田」「小五郎」。豪華四方帙入。

*疲れ本。薄い丹緑黄の 3 色。京都大学図書館蔵丹緑本（4-40||ウ||2）は濁点を有し、本版の覆刻カ。P187

088 伏見ときは（外補） 1 冊 〔寛永〕頃刊 丹緑絵入

後補転用墨色地雷文櫛菊花文艶出表紙（24.5 × 17.3cm） 外題：左肩「活字えどり本／伏見ときは」（朱、戸川濱男筆） 内題首欠によりナシ 版心：「伏見 幾（「十五」～「廿七」）」 版式：無辺無界半葉 10 行 漢字平仮名、振り仮名（後補書入あり） 印面高約 20.5cm 印記など：「戸川氏／蔵書記」（小判型朱）、「濱南」（陰方朱）、「残花書屋」（楕円朱）（以上戸川濱男（残花））、「吉田」「小五郎」。裏表紙左下に「昭和十八年四月廿四日／戸川濱男（「賓南／過眼」長方朱印）」と残花朱書あり。 帙入。帙題簽「伏見常葉〈ゑとり本〉」（戸川濱男筆）。

*汚れ本。丹緑黄の 3 色。古活字版の覆刻カ。

089 保元物語 3 巻 3 冊 〔江戸初前期〕刊 丹緑風彩色絵入

丹色地雷文櫛雨龍文艶出原表紙（27.9 × 19.1cm） 外題：左肩刷子持杵題簽「保元物語 〈上（中・下）〉」 目録題：「保元物語巻第一（二・三）目録」（振り仮名付） 内題：「保元合戦記上」「保元物語巻第二（三）」 尾題：「保元物語巻一」・ナシ・「保元物語巻第三」 版心：「保元巻一（二・三） 幾（①：「一」～「三十九」）、②：「一」～「五十二」）、③：「一」～「四十四」）」 版式：無辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高約 22.2cm 印記など：「平井油屋」（小判型朱）、「丹州／平井重右衛門／上平屋」（長方墨）、「吉田」「小五郎」。

＊刷良好。薄い丹緑のみで、彩色箇所が少ない。巻1のみの142、無彩色の祐徳稲荷神社蔵中川文庫（10/4/1865）と同版カ。

090 [たわら] とうた（柱） 3巻存下 1冊 [寛永] 刊 丹緑風彩色絵入
破損により綴じ部分に僅か鏢色表紙が残るのみ（24.4 × 16.7cm） 外題ナシ
内題首欠によりナシ 版心：「とうた下 幾（「三」～「三十一」（第32丁柱部分破損）」 版式：無辺無界半葉10行 漢字平仮名、濁点 印面高約17.7cm

＊刷良好。極薄い緑のみで彩色箇所が少ない。無彩色の『俵藤太物語』、九州大学中央図書館蔵支子文庫（913 - 9 - 2/1）、東京大学総合図書館蔵霞亭文庫（E22:776:30）、斯道文庫蔵（091・197・2）などと同版カ（東大本・斯道文庫本は後印）。

091 二十四孝（柱） 1冊 [寛永] 刊 後彩色絵入

後補転用薄鏢色地丸錦唐草文艶出表紙（26.7 × 18.6cm） 外題・内題ナシ
版心：中黒口双花魚尾「二十四孝 幾（「初」「二」～「二十三」）」 版式：四周単辺上図下文無界半葉10行 漢文・漢字平仮名、漢詩のみ返り点・片仮名振り仮名 匡郭約21.2 × 15.4cm（上から8.5cmで横線） 印記など：末尾に重ね捺して読めなくした陽陰の長方朱印2顆。

＊上図右に小判型に近い形で陰刻の孝子名を加えたもの。虫損激しく全丁裏打済。質の悪い丹緑藍などを彩色。東京学芸大学附属図書館蔵望月文庫本（T1A0/22/80）に返り点・振り仮名を加えた覆刻版。

092 わたさかもり 1冊 [寛永] 京・敦賀屋久兵衛刊 丹緑絵入

墨色地雷文繋唐草文艶出原表紙（24.6 × 17.2cm） 外題：左肩題簽「（摩滅）全（墨書）」 内題：「わたさかもり」 版心：「和田 幾（「一」～「九」（最終丁破損）」 版式：四周単辺無界半葉14行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約22.4 × 16.2cm 刊記など：裏見返し右下に子持杵木記「京四条坊門通／ 敦賀屋久兵衛」。 印記など：「吉田」「小五郎」。

＊薄めの丹緑のみ。比較的状态良好。無彩色の寛永12年刊の国文学研究資料館蔵「舞の本」（99-211-1～36）、丹緑本の国会図書館蔵（本別13-23）などとは覆刻の関係カ。P104

093 たなはた 2巻存下 1冊〔江戸前期〕〔江戸〕松會刊 後彩色絵入
後補転用栗皮表紙(27.1 × 19.0cm) 外題ナシ 内題:「たなはた 下」 版心:
「たなはた下 幾(「一」～「二十五終」)」 版式:無辺無界半葉 10行 漢字
平仮名、冒頭近くのみ振り仮名と濁点少々 印面高約 20.5cm 刊記など:最
終丁裏左下の匡郭に付けた木記に「松會開版」とあり。 印記など:「吉田」
「小五郎」。

*水染み疲れ本。朱水色黄などで丁寧に彩色。

094 伏見〔常盤〕(柱) 1冊〔寛永頃〕刊〔丹緑〕絵入
墨色地雷文繫蓮華唐草文艶出原表紙(表はほぼ破損)(24.8 × 16.9cm) 外題・
内題ナシ 版心:「伏見 幾(「四」～「廿八終」)」 版式:無辺無界半葉 10
行 漢字平仮名、冒頭近くのみ振り仮名と濁点少々 印面高約 20.4cm 印記
など:途中落書き多く、「吉田村秋山此主三太良」・「三太郎」・「此主三たらう」
などとあり。「吉田」「小五郎」。

*首二丁欠。薄い丹緑〔黄〕の3色。無彩色の寛永12年刊の国文学研究資
料館蔵「舞の本」(99-211-1～36)、国会図書館蔵「舞の本」(本別13-28)所
収本と同版カ。P76

095 伊曾保物語 3巻存上 1冊〔万治2年(1659)〕刊 後彩色絵入
後補転用薄縹色表紙(26.9 × 17.8cm) 外題ナシ 目録題:「伊曾保物語上目
録」 内題:「伊曾保物語上」 版心:双黒魚尾「伊曾保上 ○幾(「一」～「十八
終」)」 版式:四周単辺無界半葉 12行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点
匡郭約 20.9 × 15.1cm 印記など:末尾に「此主〔搜〕元」と墨書。「松露荘」
(方朱)、「謙」(丸朱)・「政□」(丸墨)、「吉田」「小五郎」。

*上部他の破損を丁寧に補修済。朱緑黄の3色で丁寧に彩色。無彩色の万治
2年刊の筑波大学附属図書館蔵(ル150-2)、京都大学附属図書館蔵(4-40/
イ/1貴)などと同版カ。

096～8 鎌倉管領九代記 15巻存巻4下・巻8上・巻9下 3冊〔寛
文11年(1671)〕刊 後彩色絵入

縹色原表紙(27.2 × 19.1cm) 外題:左肩に題簽剥落痕、中央に水色地紗綾
文唐紙題簽(8.1 × 7.4cm)を貼付し、「巻第四下(八上・九下) / 〈上中下〉
三冊〈ノ〉内／數七(十一・十五〔終〕)」と墨書 目録題:「鎌倉管領九代

記卷第四之下（八上・九之下）目録 内題：「鎌倉管領九代記卷第四之下（八上・九之下）」 版心：双黒魚尾「鎌倉九代記卷四ノ下（八上・九下）○幾（④「一」～「廿四」（⑧～「廿三」、⑨～「廿五」）」、版式：四周単辺無界半葉 11 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 21.0 × 16.4cm 印記など：第 2 冊裏表紙に「遠〔州〕 豊田〔郡〕／太久保村／中村□〔治〕」と墨書、他の冊にも同様の書入、各冊末尾に「十五冊」と墨書。「石／遠□西坂／□」（丸墨）（前 2 冊末尾頁に丸に違い鷹の羽の墨小印を重ね捺し）、「吉田」のみ。
* 表紙各冊中央下部に「ト」「ヨ」「ル」と墨書。表紙傷みの疲れ本。丹緑黄白の 4 色で丁寧に彩色。初冊に刊行当初の色付けと推測した万年筆書きの紙片あり。

099 大さつしよ 2 卷合 1 冊 〔江戸前期〕刊 後彩色絵入

茶色艶出〔原〕表紙（26.3 × 17.9cm）（表表紙は色紙がほぼ破損し芯紙を墨塗り）
外題ナシ 目録題：上首欠・「大さつしよもくろく第下」 版心：「卷上（下）幾（「三」～「廿五」、「一」～「十五」・尾欠）」 版式：四周単辺無界半葉 13 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 匡郭約 22.1 × 16.0cm 印記など：裏見返しに「元文六年／信州佐久郡矢嶋村／ 二月七日」と墨書（裏表紙にも文字数の同様の書入れあるも判読不能）。末尾に「吉田」「小五郎」。
* 首尾欠の疲れ痛み本。上三丁目裏を見返しに貼付。下「廿八 年暦六十づ」・「廿九 男女あひしやうの事」の挿絵に朱の後彩色。東京学芸大学附属図書館蔵（T1A0/90/43）と覆刻の関係カ。

100 しだ 2 卷存下 1 冊 寛文 9 年（1669）江戸・山本九左衛門刊 丹緑風後彩色絵入

白茶色地毘沙門繫卷竜文〔原〕表紙（27.1 × 18.7cm） 外題：「左肩題籤剥落痕」 内題：「しだ 下」 版心：「した ▲下幾（「一」～「八」・「九十一」・「一二三」）」 版式：四周単辺無界半葉 15 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 匡郭約 22.0 × 16.7cm 印記など：首に「古堀栄文庫」（丸朱）、「□／宗」（布銭型朱）、裏表紙左下に「國文文庫」（長方朱、国分剛二）。
* 料紙漉返し。やや疲れ痛み本。発色不自然な丹緑を丁寧に塗る。

101 義経記 8 卷存卷 1～4 合 2 冊 〔元和寛永〕刊 古活字 丹緑絵入 丹色地蜀江錦文龍文艶出〔原〕表紙（26.4 × 17.4cm）（題籤の痕跡なく裏表

紙を転用するか) 外題: 左肩打付で「判官物語 〈一／二 (三／四)〉」と墨書 (二冊目題名下に「義経記」と朱書 (別筆)) 目録題:「義経記卷第一 (～四) 目録」 内題:「義経記卷第一 (～四)」 尾題:「義経記卷第一 (～四)」 版心: ナシ 版式: 無辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点は書入れ 印面高約 23.3cm 印記など:「沙羅／樹園」(方朱)、1 冊目首と 2 冊目末に重ね捺して読めなくした方と長方の朱印 帙入。帙題簽「義経記〈第一…第二／第三…第四〉」。

* 2 冊目表紙右肩に「寛永八年」と朱書。袋折目の裂けが目立つものの状態良好。薄めの丹緑黄の 3 色で比較的丁寧に彩色。『古活字版の研究』第二種本 (口) (東洋文庫蔵、第四四七図) と同版カ。

102,109,117,121 義経記 8 卷存巻 1,2,5,7 4 冊 [正保 2 年 (1645)] 刊 丹緑絵入

縹色地に繫牡丹唐草文艶出原表紙 (27.5 × 18.0cm) 外題: 1 冊目は左肩題簽剥落痕の上に打付で「義経記 〈丹緑本〉」と朱書、2、3 冊目は左肩後補素紙題簽に「義経記 貳 (五)」と墨書 (同筆)、4 冊目は左肩題簽剥落痕の上に「義経記第七」と墨書 (異筆) (剥がれた「義経記 七」(2,3 目と同じ)) とある題簽を挟む 目録題:「義経記卷第一 (二、五、七) 目録」 内題:「義経記卷第一 (二、五、七)」 尾題:「義経記卷第一 (二、五、七) 終」 版心:「義経一 (二、五 (初丁「五」のみ)、七 (初丁ナシ)) 幾 (①: ナシ (彫ってあるものの摺ってないらしい)・「二」～「十八終」)、(②: ナシ (同)・「二」～「廿六終」)、(⑤: ナシ (同)・「二」～「四十六」)・(⑦: ナシ (同)・「二」～「五十六終」)」 版式: 無辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 22.0 × 16.6cm 印記など:「田中蔵書」(長方朱)、2、4 冊目「家満夢樂」(方朱)、「吉田」「小五郎」。

* 表紙の裏紙は薬方書の版本刷反故。丹緑黄紫の 4 色で比較的丁寧に彩色。105 (107,111,116,119,120), 122 (丹緑本) と同版。無彩色のカリフォルニア大学バークレー校東亜図書館本、国文学研究資料館蔵絵抜本 (タ 4-65-1 ～ 7)、同志社大学図書館蔵絵抜本 (913.436/G318/14) と同版カ。

103,108 義経記 8 卷存巻 1,2 2 冊 [寛永 10 年 (1633)] 刊 後彩色 絵入

栗皮原表紙(27.4 × 17.8cm) 外題:左肩題簽剥落痕(第1冊目は左肩に「義経記」、右肩に「寛永」と朱書) 目録題:「義経記巻第一(二)目録」 内題:「義経記巻第一(二)」 尾題:「義経記巻第一終」・「二終」 版心:「義経一(二)」

幾(①:ナシ・「二」～痛みにより不明)、(②:ナシ・「二」～「三十九終」)(挿絵丁は表右端や裏左端、あるいは柱に「一(二)ノ 幾」などとあり)
版式:無辺無界半葉11行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高約22.9cm 印記など:「〔野中〕」(長方朱)、「和」(丸代赭)、「吉田」。

*虫損、落書きあり。丹と〔薄茶〕色で彩色。巻は異なるものの106・123(丹緑本)、また無挿絵の武庫川女子大学附属図書館蔵寛永10年刊本(913.436||GI||1～8)と同版カ。

104,113 義経記 8巻存巻1,3 2冊〔延宝5年(1748)〕刊 後彩色絵入
縹色地卍繫牡丹唐草文艶出原表紙(27.0 × 19.0cm)(巻3は色紙ほぼ剥落)
外題:左肩子持杵刷原題簽「〈江戸／新版〉義経記 〈一〉」(3ナシ) 目録題:「義経記巻第一(三)目録」 内題:「義経記巻第一(三)」 尾題:「義経記巻第一(三)終」 版心:「義経記 一(三) 幾(①:「一」～「十三終」、③:「一」～「二十一終」)」 版式:四周单边無界半葉16行 漢字平仮名、濁点 匡郭約22.4 × 16.7cm 印記など:1冊目見返「上〔森〕沢平左衛門、同裏見返「藤森八左衛門」と墨書。1冊目見返「つ(朱)／395／白三巳／冊(ベン)」(丸朱)印。「吉田」。

*巻3ふけて状態不良。朱桃色水色黄等で彩色。長崎大学附属図書館蔵(和619-1～8(196))、宮城県図書館伊達文庫蔵(伊289/キ1)の延宝5年(江戸)鱗形屋・本問屋版と同版カ。

105,107,111,116,119,120 義経記 8巻欠巻4,8 6冊〔正保2年(1645)〕刊 丹緑絵入

縹色地雷文繫蓮華唐草文艶出原表紙(27.9 × 18.5cm) 外題:左肩題簽剥落痕(巻3のみ子持杵刷題簽が一部存) 目録題:「義経記巻第一(～三・五～七)目録」 内題:「義経記巻第一(～三・五～七)」 尾題:「義経記巻第一(～三・五～七)終」 版心:「義経一(二・三(目録丁のみ「三」)・五(目録丁のみ「五」・六・七) 幾(①:「一」～「十八終」、②:「一」～「廿六終」、③:「一」～「廿二終」、⑤:「一」から「四十六」、⑥:ナシ(あるも摺ってないか)・

「二」～「五十二終」、⑦：「一」～「五十六終」) (挿絵丁は表右下匡郭外に「幾ノ又幾」とあり) 版式：四周单边無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 22.0 × 16.6cm 印記など：巻 2 裏見返判読不能丸墨印、巻 3 裏見返「小澤傳〔五郎〕 (判読不能墨方印)」、巻 1、2、3「吉田」「小五郎」。小口書「一 (～三・五～七)」。

* 巻 3 糸切れ。丹緑黄紫の 4 色。102 (109,117,121,122), 122 (丹緑本) と同版。無彩色のカリフォルニア大学バークレー校東亜図書館蔵本、無挿絵の同志社大学図書館蔵本 (913.436/G318/1-4)、国文学研究資料館蔵本 (タ 4-65-1 ~ 7) などの正保 2 年版と同版カ。P52

106 義経記 8 巻存巻 1 1 冊 [寛永 10 年 (1633)] 刊 丹緑絵入

〔後補転用〕 縹色表紙 (27.7 × 18.1cm) 外題ナシ 目録題：「義経記巻第一目録」 内題：「義経記巻第一」 尾題：「義経記巻第一終」 版心：「義経一 (目録丁ナシ) 幾 (ナシ・「二」～「二十」) (挿絵丁は表右端や裏左端、あるいは柱に「一ノ 幾」などとあり) 版式：無辺無界半葉 11 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高約 22.9cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

* 丹緑黄紫の四色。本体は比較的保存良好も墨汚れあり。巻は異なるものの 103 (後彩色絵入本)、123 (丹緑本) と同版。無挿絵の武庫川女子大学附属図書館蔵寛永 10 年刊本 (913.436||GI||1 ~ 8) と同版カ。P64

110,118,125 義経記 8 巻存巻 3,6,8 3 冊 [万治頃] 刊 [丹緑] 絵入

縹色地不明文艶出〔原〕表紙 (27.3 × 19.4cm) (ほぼ破損し綴代部分のみ) 外題ナシ 目録題：「義経記巻第三 ((6 首欠)・八) 目録」 内題：「義経記巻第三 ((巻 6 首欠)・八)」 尾題：「義経記巻第三 ((巻 6 首欠)・八) 終」 版心：「義経三 (六・八) 幾 (①：「〔一〕」～「三十八」、⑥：「〔十〕」～「〔四十三〕」、⑧：「一」～「三十一」) (挿絵丁は又丁付) 版式：四周单边無界半葉 14 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 21.0 × 17.26cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

* 薄い丹緑黄 3 色。疲れ水濡れ本。無挿絵の岩国徴古館蔵万治 2 年風月庄左衛門版 (五類三号 619) と同版らしいが、こちらは無刊記。

112 [往生要集] 断簡 5 紙 [寛文 11 年 (1671)] 刊 後彩色絵入

巻 5、6 の挿絵部分の半葉 4 紙と見開き 1 紙 (半葉 22.3 × 15.3cm)

* 丹緑黄紫の4色。1紙のみ寛文11年版に存する文字部分のないものあり。
他は欠損から同版と考えられるので、一部改刻カ。

115 〔祇園祭禮行列繪卷断簡〕 16紙 〔寛永12年(1635)以前〕刊 一部丹緑彩色

雲母刷料紙(29.0×20.8cm程度) 5紙丹緑彩色(丹緑黄紫)・7紙無彩色・4紙丹緑彩色後墨染 版式:上下に雲霞の線、画中詞的説明文あり 印記など:「三袖書屋」(長方朱)・「一馬」(朱六角陰印)(以上川瀬一馬)。 帙入。帙題簽「祇園祭禮行列繪卷〈断簡 丹緑本／ 寛永初年刊〉十六葉(「一馬」朱六角陰印)」。

* 色紙状台紙中央に「祇園祭禮行列繪卷〈断簡 寛永初年刊／ 〈寛永十二年刊義経記／紙背發見〉十六葉〉／ 川瀬蔵(「一馬」朱六角陰印)」とあり。薄緑色の紙に「この版画は寛永十二年刊義経記八冊の原表紙裏に反故として使／用されたるものにして、雲母引の料紙を用ひ、筆彩色あるもあり。少／くとも二部以上の反故紙と見ゆ。こは寛永行幸記三軸なとと同時／代同類の繪卷刊本なり。この類は未だ嘗て一本も実見し／たることなし。摺の具合を見るにこの十六葉何れも初印なり。／祇園会繪卷又は京洛祭礼繪卷と〔も〕いふ名目のものなるへし。／珍しければ表紙よりはづして他日完本繪卷發見の日を期し／しはらく残葉によりて原姿をしのはんとす。／ 昭和三十八年六月五島美術館に於ける版本挿絵の歴史展に／参考資料とて陳列のため小倉氏を煩はして表紙よりはづす。／ 昭和癸卯八月七日 明朝飛驒高山へ赴かんとす。／ 川瀬一馬(「一馬」朱六角陰印)」とあり。吉田「失われた丹緑本」(『民藝』224、昭46年)、渡邊亜紀「丹緑本考—新出「(祇園祭礼)図」の紹介をかねて、および『暈し』の技法について—」(『實踐國文學』55、1999・3)に記述あり。

122 義経記 8巻存卷7 1冊 〔正保2年(1645)〕刊 丹緑絵入

後補転用丹表紙(27.7×18.3cm) 外題ナシ 目録題:「義経記巻第七目録」

内題:「義経記巻第七」 尾題:「義経記巻第七終」 版心:「義経七 幾(「一」～「五十六終」)」(挿絵丁は表右下匡郭外に「七ノ又幾」とあり) 版式:四周单边無界半葉12行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約21.9×16.5cm 印記など:最終丁裏左下に「信真(花押)」と墨書。「吉田」「小五郎」。

*丹緑黄紫の4色。本文に朱傍点や合点、上欄に地名を抜き出した朱書入れあり。行程を検討した朱筆のメモと関連するか。102 (109,117,121,122), 105 (107,111,116,119,120) と同版。無彩色のカリフォルニア大学バークレー校東亜図書館蔵本、無挿絵の同志社大学図書館蔵本 (913.436/G318/1-4)、国文学研究資料館蔵本 (タ4-65-1~7) などの正保2年版と同版カ。

123 義経記 8巻存巻7 1冊 〔寛永10年(1633)〕刊 丹緑絵入

〔後補転用〕丹色地雷文櫛菊花文艶出表紙 (27.4 × 17.7cm) 外題：左肩後補題簽に「義経記 巻第七」と墨書 目録丁欠 内題：「義経記巻第七」 尾題丁欠 版心：「義経七 幾(「二」~「六十二」)」(挿絵丁は表右端や裏左端、あるいは柱に「七ノ幾」などとあり) 版式：無辺無界半葉11行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高約22.5cm 印記など：「吉田」「小五郎」、題簽に「平〔塚〕／□□」(方朱)。

*大傷み本を大補修して丹表紙を加える。丹緑黄の3色。巻は異なるものの103(後彩色絵入本)、106(丹緑本)と同版。無挿絵の武庫川女子大学附属図書館蔵寛永10年刊本 (913.436||GI||1~8) と同版カ。

124 義経記 8巻存巻8 1冊 正保3年(1646)京・西村又左衛門刊 丹緑絵入

〔後補転用〕墨色表紙 (27.4 × 17.8cm) 外題：左肩打付で「義経記 巻八」と墨書 目録内題丁欠 尾題：「義経記巻第七終」 版心：「義経八 幾(「四」・「六」~「二十六」)」(挿絵丁は表右端や裏左端、あるいは柱に「八ノ幾」などとあり) 版式：無辺無界半葉11行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高約22.5cm 刊記など：最終丁表左下に子持梓木記「正保丙戌仲春吉旦／〈寺町誓願寺前〉西村又左衛門板行」。印記など：「春翠／文庫」(方朱、中島仁之助)、「吉田」「小五郎」。

*大傷み水濡本を大補修。丹緑黄の3色。初瀬川文庫蔵本 (31 - 567 ~ 573)、國學院図書館蔵本と同版カ。

126 曾我物語 〔挿絵集成〕 合2冊 〔寛永〕刊 丹緑絵入

〔後補転用〕縹色艶出表紙 (23.8 × 16.9cm) 外題：左肩後補題簽に「〔寛永版〕／ 曾我物語 〈挿絵 一(二)〉」と墨書し、「寛永」に朱傍点 版式：四周単辺 匡郭約19.3 × 14.6cm 印記など：両冊見返し右肩に紙片を添付し、「寛

永版曾我物語 前半の内／さしゑ十七枚／ 丹緑筆彩色」、「寛永版曾我物語
／後半挿絵 十一枚」と墨書。上冊に「五、曾我物語の挿絵のみ綴りしもの
／（水谷不倒）」と青色万年筆で記した紙片あり。「□竹／園主」（方朱）・「頼
／徳」（象型朱）、「豫垣生／高橋氏／蔵書印」（方朱、墨斜線で抹消）、「吉田」
「小五郎」。

* 丹緑黄の3色。水染ある裏打ち補修本ながら、挿絵の状態はかなり良好。

127,137 曾我物語 12 卷存卷 2,12 2 冊〔寛永頃〕刊 丹緑絵入

縹色地麻葉文艶出原表紙（28.3 × 18.3cm）（巻 2 補修済） 外題：左肩無枠原
題簽「そか物語 〈十二〉」（巻 2 剥落） 目録題：「曾我物語卷第二（十二）目録」

内題：「曾我物語卷第二（十二）」 尾題：「曾我物語卷第二（十二）終」 版心：
「曾我卷二（十二） 幾（②：「一」～「卅四」、⑫：「一」～「廿一」）」（挿絵
丁「二（十二） 幾（前丁の丁数、2 最終丁「終」、12 最終丁「〔廿一〕）」 版式：
四周単辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 21.6
× 16.9cm 印記など：巻 2 末尾に「伊藤庄次郎光暉」、巻 12 末尾に「日野大
納言光慶五代孫／ 伊藤庄次郎光暉式部入道長榮法眼／ 之造」と墨書。
「藤」（方朱、藤園堂）、「吉田」「小五郎」。

* 丹緑黄の3色。巻 2 水濡れで状態悪く補修済。巻 12 水濡れあるも比較
的良好。正保 3 年安田十兵衛版（国会図書館蔵丹緑本など）は、本版の柱に縦
線を加え、挿絵丁の丁付を又丁付にするなどした覆刻。128 と同版。

128 曾我物語 12 卷存卷 2 1 冊〔寛永頃〕刊 丹緑絵入

後補転用縹色地蜀江錦文空押表紙（25.7 × 18.1cm） 外題：左肩題簽剥落痕
の上に「曾我物語 卷一^(ママ)」と墨書 目録題：「曾我物語卷第二目録」 内題：「曾
我物語卷第二」 尾題：「曾我物語卷第二終」 版心：「曾我卷二 幾（「一」～「卅
四」）」（挿絵丁「二 幾（前丁の丁数、最終丁「〔終〕）」 版式：四周単辺無
界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 21.6 × 16.9cm
印記など：見返し左下に「信親（印文不明墨丸印）」と墨書。「吉田」「小五郎」。

* やや傷み本。丹緑黄紫の4色。127 と同版。

129 曾我物語 12 卷存卷 2 1 冊〔正保 3 年（1646）〕刊 後彩色絵入

新補薄茶色表紙（26.4 × 18.3cm） 外題：左肩打付で「曾我物語 〈卷之二〉」
と朱書 目録題：「曾我物語卷第二目録」 内題：「曾我物語卷第二」 尾題：

「曾我物語卷第二終」 版心：「曾我卷二 幾（「一」～「卅四」、挿絵丁「又幾」）」 版式：四周単辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 21.1 × 16.2cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

* 黄 1 色。目録に通り番号がなく、柱に縦の界線があるので正保 3 年版と判断。

130 曾我物語 12 卷存卷 4 1 冊〔正保 3 年 (1646)〕刊 丹緑絵入
新補洗朱色表紙 (26.0 × 19.1cm) 外題ナシ 目録・内題丁欠 尾題：「曾我物語卷第四終」 版心：「曾我卷四 幾（「二」～「二十五」）、挿絵丁「又幾」）」 版式：四周単辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 21.3 × 16.3cm 印記など：「吉田」「小五郎」。 帙入。帙題簽「曾我物語 四（「平塚」陰長方朱)」。

* 丹緑黄の 3 色。裏打ち補修済。柱に縦の界線があるので正保 3 年版と判断。

131 曾我物語 12 卷存卷 8 1 冊〔正保 3 年 (1646)〕刊 丹緑絵入
新補薄茶色表紙 (26.6 × 17.8cm) 外題：左肩打付「曾我物語卷第八 丹緑本」(朱) 目録・内題・尾題丁欠 版心：「曾我卷八 〔幾〕(丁数部分の破損が酷く確認不能)」 版式：四周単辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 21.3 × 16.0cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

* 大きな破損あり。薄い丹緑の 2 色。柱に縦の界線があるので正保 3 年版と判断。132,133 と同版 133 に次ぐ印。

132 曾我物語 12 卷存卷 8 1 冊〔正保 3 年 (1646)〕刊 丹緑風絵入
後補転用縹色表紙 (26.4 × 18.0cm) 外題：左肩後補題簽に「曾我物語卷之八」と墨書 目録丁欠 内題：「曾我物語卷第八」 尾題丁欠 版心：「曾我卷八 幾（「二」～「三十六」、挿絵丁「又幾」）」 版式：四周単辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 21.1 × 15.8cm 印記など：転用見返し中央付近に「一二三六八五冊之内」と墨書。裏見返しに「天保八年酉七月／(署名墨減、一字目「佐」)」と墨書。同左に「曾我物語は此外ニ正保三年正月吉祥日 誓願寺前安田十兵衛開板十二冊／ツヅキノモノアリ丹緑本ニシテ文面輪郭ナク挿画雲中ニ太^(ママ)き黒線／ヲ有する雲アリ」と朱書。「吉田」。

* 朱水色黄の 3 色。131,133 と同版で最後印。

133 曾我物語 12 卷存卷 8 1 冊 [正保 3 年 (1646)] 刊 丹緑絵入

縹色地卍繫〔牡丹〕唐草文艶出原表紙 (27.6 × 17.9cm) 外題：左肩〔後補〕
題簽に「曾我物語八」と墨書 目録題：「曾我物語卷第八目録」 内題：「曾
我物語卷第八」 尾題：「曾我物語卷第八終」 版心：「曾我卷八 幾 (「一」
～「廿七」、挿絵丁「又幾」)」 版式：四周単辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、
振り仮名・濁点・句点 匡郭約 21.4 × 16.2cm 印記など：裏見返しに剥が
れて見える表紙裏に「寛政七年／卯十二月吉日」・「染物帳／地藏堂町／ 中
村禎蔵／主」など墨書。「吉田」「小五郎」。

* 薄い丹緑の 2 色。134 と一具であった可能性が高い。131,132 と同版で最
早印。

134 曾我物語 12 卷存卷 11 1 冊 [正保 3 年 (1646)] 刊 丹緑絵入

縹色地卍繫〔牡丹〕唐草文艶出原表紙 (27.7 × 17.7cm) (薄縹色の別表紙を
利用して補修) 外題：左肩に題簽の痕跡 (ほぼ摩滅) 目録題：「曾我物語
卷第十一目録」 内題：「曾我物語卷第十一」 尾題：「曾我物語卷第十一終」
版心：「曾我卷十一 幾 (「一」～「二十」、挿絵丁「又幾」)」 版式：四
周単辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 21.2 ×
16.2cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

* 本文部分比較的良好。丹緑の 2 色。133 と一具であった可能性が高い。

135 曾我物語 12 卷存卷 9 1 冊 [寛永頃] 刊 丹緑絵入

表紙欠 (角に僅かに縹色表紙の痕跡) (28.0 × 18.5cm) 外題ナシ 目録題：
「曾我物語卷第九目録」 内題：「曾我物語卷第九」 尾題：「曾我物語卷第九
終」 版心：「曾我卷九 幾 (「一」～「卅三」)」 (挿絵丁「九 幾 (前丁の
丁数)」) 版式：四周単辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句
点 匡郭約 21.8 × 16.9cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

* 丹緑黄紫の 4 色。やや傷みが激しい。

136 曾我物語 12 卷存卷 11 1 冊 [寛永頃] 刊 [丹緑] 絵入

後補転用縹色地雷文襷雨龍文艶出表紙 (25.4 × 17.8cm) 外題：左肩題簽剥
落痕の上に原刷題簽を貼付「曾我物語 十 [一]」 (下部破損) 目録題：「曾
我物語卷第十一目録」 内題：「曾我物語卷第十一」 尾題：「曾我物語卷第
十一終」 版心：「曾我卷十一 幾 (「一」～「二十」)」 (挿絵丁「十一 幾 (前

丁の丁数)」) 版式: 四周単辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 匡郭約 21.7 × 16.9cm 印記など: 第 1 丁表右下に「平野屋宗七／御本所／東華軒」(長方墨)、右上に「陸〔軍〕□□／□□学校／図書之印」(方朱)、その上に「羽州最上／(記号) 内海／前明石村」(墨丸)。「吉田」「小五郎」。

* 丹緑橙の 3 色。裁ち落しや水染みがあるものの比較的良好。

138 小袖曾我 2 巻 2 冊〔寛永頃〕刊 丹緑絵入

墨色地卍繫牡丹唐草文艶出原表紙 (24.4 × 17.4cm) 外題: 上ナシ、下左肩 原題簽「こ〔そ〕てそ〔か〕」(破損あり) 内題: 「小袖曾我」 版心: 「小袖 幾 (「一」～「十二」、「十三」～「廿四終」)」 版式: 無辺無界半葉 10 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 印面高約 20.9cm 印記など: 下冊見返しに「宝永元年同貳年かんはつ／大暑ゆへ」・「奉」、同冊裏見返しに「天和貳年八月日」と墨書。「紙魚庵蔵書」(長方朱、佐藤峻吉)、「吉田」「小五郎」。

やや古い帙入。帙題簽「小袖曾我 〈丹緑本〉二冊」。

* 3 方に柿渋を塗っているが、本文の状態は良好。丹緑の 2 色。国文学研究資料館蔵寛永 12 年版「舞の本」、無刊記の国会図書館・国立公文書館蔵本とは覆刻の関係カ。P100

139 たむらのさうし 2 巻 2 冊〔正保 3 年 (1646)〕刊 後彩色絵入

表紙欠 (上: 27.5 × 18.0cm、下: 22.7 × 17.5cm) 外題ナシ 内題: 上首欠、「たむらのさうし 下」 版心: 「田村上 (下) 幾 (上: 「〔四〕」～「三十二」、下: 「〔一〕」～「〔二十七〕」)」 版式: 無辺無界半葉 10 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 印面高約 19.7cm 帙代わりの厚紙の表左肩に「田村のさうし 〈上下全〉」、右端に「正保三年三月 杉田勘兵衛開板」と朱書。

* 薄い丹〔緑〕の 2 色カ。部分的に胡粉を使用。全体的に状態が悪く、疲れ汚れ傷みが激しい。下冊は上下をかなり切り詰めているが、上冊は切り詰めたものとそのままの丁とが混在する不思議な状態となっている。汚れ方にあからさまな差はないが、取り合わせか。国文学研究資料館蔵本と覆刻の関係カ。

140 あつもり 1 冊〔寛永頃〕刊 丹緑絵入

後補転用縹色地卍繫牡丹唐草文艶出表紙 (24.7 × 16.9cm) 外題ナシ 内題: 「あつもり」 版心: 「敦盛 幾 (「一」～「十九」)」 版式: 無辺無界半葉 10

行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 印面高約 20.5cm 印記など：「吉田」「小五郎」。 帙入。帙題簽「あつもり」。

* 状態悪く色褪せる。全丁裏打補修済。丹緑黄紫の 4 色。無彩色の国会図書館蔵（本別 13-22）本と同版でこちらが早印カ。国文学研究資料館蔵寛永 12 年版「舞の本」、無刊記の国会図書館・国立公文書館蔵本と覆刻の関係カ。

141 〔静〕 1 冊 〔寛永頃〕刊 丹緑風彩色絵入

後補転用茶色表紙（23.5 × 17.5cm） 外題：左肩打付で「静 〈丹緑／ 舞の本〉」と朱書 内題丁欠 版心：「静 〔幾〕（「〔四〕」～「〔八〕」、破損につき他本により推定）」 版式：無辺無界半葉 10 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 印面高約 20.2cm 印記など：転用と思われる裏表紙の見返しの袋内側に「〈神田村〉／ 富永兵右衛門」と墨書。「吉田」「小五郎」。

* 首尾欠。存 1 図で丹緑の 2 色。色塗り箇所極少。全丁裏打補修済。国文学研究資料館蔵本（タ 7-7 1）、舞鶴市郷土資料館蔵本と同版カ。国文学研究資料館蔵寛永 12 年版「舞の本」、無刊記の国会図書館・国立公文書館蔵本と覆刻の関係カ。

142 保元物語 3 卷存巻 1 1 冊 〔寛永〕刊 〔丹緑〕絵入

栗皮原表紙（27.8 × 18.9cm）（裏表紙ほぼ破損） 外題：左肩剥落痕跡 目録題：「保元物語巻第一目録」（振り仮名付） 内題：「保元合戦記上」 尾題：「保元物語巻一」 版心：「保元巻一 幾（「一」～「三十九」）」 版式：無辺無界半葉 12 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点・句点 印面高約 21.8cm 印記など：「吉田」「小五郎」。 帙入。帙題簽「保元物語 第一」。

* 丹緑黄の 3 色。89、無彩色の祐徳稻荷神社蔵中川文庫本（10/4/1865）と同版カ。P42

143 烏帽子折（版心） 首尾欠 1 冊 〔寛永〕刊 丹緑風彩色絵入

表紙欠（25.3 × 16.9cm） 外題内題ナシ 版心：「烏帽子折 幾（上「〔七〕」～「〔二十一〕」）」 版式：無辺無界半葉 10 行 漢字平仮名、振り仮名 印面高約 19.8cm 印記など：「吉田」「小五郎」。 帙代わりの厚紙の表左肩に「ゑぼしおり」、右肩に「寛永」と朱書。

* 状態非常に悪い。薄い丹〔緑〕の 2 色。東京大学総合図書館霞亭文庫本・上田市立上田図書館花月文庫本と同版カ。

144 ゑぼしおり 2巻存上 1冊〔寛永12年(1635)〕刊 後彩色絵入
薄縹色原表紙(24.2×17.2cm) 外題:左肩原刷題簽「ゑぼしお〔り〕〈上〉」

内題:「ゑぼしおり上」 版心:「烏帽子折 上幾(「一」~「二十三」)」 版式:
無辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・句点 印面高約20.3cm 印記
など:裏見返し左下に「上田〔重〕治郎」と墨書。見返し右上に「〈本／函〉
十四號／〈冊／數〉一冊／ 九參六／「濱和助」(長方朱印)」との蔵書票。

* 薄い朱の1色。国文学研究資料館蔵寛永12年版「舞の本」と同版カ。

145 馬そろゑ 1冊〔寛永頃〕刊 〔丹緑〕絵入

後補転用薄縹色地雷文繫蓮華唐草文空押表紙(24.7×17.7cm) 外題:左肩
打付で「馬そろゑ」と朱書 内題:「馬そろゑ」 版心:「馬揃 〔幾〕(「一」
~「十終」)」 版式:無辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 印
面高約20.4cm 印記など:「月明莊」(大型長方朱、弘文莊反町茂雄)、「吉田」
「小五郎」。

* 裏表紙中央に題簽痕あり。薄い丹緑黄紫の4色。東京大学総合図書館霞亭
文蔵本、無彩色の国文学研究資料館蔵(タ7-3)本、同蔵寛永12年版「舞
の本」などと同版カ。

146 〔版本断簡貼交帳〕 1冊〔寛永~明和〕刊 含丹緑絵

竹皮風布目紙表紙(30.2×21.2cm) 外題:左肩山吹茶色花の丸文緞子題簽(文
字ナシ) 内題ナシ 印記など:「水谷文庫」(長方朱、水谷不倒)。 文書袋
表に「和本いろ(いろ)／ハリマゼ／寛永版 曾我物語／ ャ 仁勢物語／
明暦四年 京童／万治三年 女礼式 等々」と墨書。

* 128枚貼込み。寛永「曾我物語」(丹緑)・同「竹斎」・同「仁勢物語」・慶
安版「同」・明暦4年「大織冠」(丹緑)・同「京童」・寛文「女式」・同元年
「〔しんとく物語〕」・万治3年「女諸礼集(女礼式)」・万治「東海道名所記」・
寛文11年「しかた咄」・万治頃「葛城物語」・寛文3年「南海治乱記」・寛文
「小さかつき(小盃)」・同「日本名女物語(日本名女咄)」・天和「ト養狂歌集」・
同「鹿野武左衛門口伝はなし(咄)」・天和3年「竹斎(物語)」・寛文5年「大
倭廿四孝」・寛文元年「しんとく丸」・「葛城物語」・「一休はなし」・元禄3年
「俳諧生駒堂」・同8年「姿絵百人一首」・同16年「立身大福帳」・「姿絵百人
一首」・宝永6年「風流午前二代曾我」・正徳初年「野傾旅葛籠」・「午前義経

記」・「本朝藤陰比事」・元禄7年「西鶴織留」・延宝「楠軍記」・「古代模様ひいな形」・「壺の石碑」・正徳「薄雪物語」・正徳5年「義経風流鑑」・元禄13年「念仏和讃」・宝永8年「忠義武道播磨石（一名忠義太平記）」・「本朝知恵鑑」・「御伽平家」・延享4年「自笑楽日記」・「武道（ママ・遊）双綴巴」・「朝鮮せいばつ記」・元禄10年「御成敗式目絵抄」・正徳5年「諸分床軍談（奥付）」・元禄「北条五（三）代記」・「杓子御利生」・「西川祐信筆（絵本）」・其蹟「座狂はなし（咄）」・宝暦2年「世間母親容気」・寺沢昌信画「題不知」・「八文字屋退転の広告」・「雨月物語」・「女武勇粧競」・「山ねこまはし」・延享3年「新説富士雪」。

147 〔稀書複製会見本帖〕 仮綴1冊 大正～昭和刊

素紙表紙（28.5 × 19.7cm） 外題・内題ナシ 印記など：「吉田」「小五郎」。

＊巻頭の『西鶴諸国はなし 一』の表紙は色刷で丁裏ナシ。他は各作1、2丁分をすべて同じ大きさの同質紙に印刷。『西鶴諸国はなし』を除き40丁。『うをのうた合』、『ゑほしおり』、『保元物語』、『平治物語』、『義経記』の5作は丹緑本。

148 〔絵本2種抜粋合綴〕 合1冊 〔江戸中期〕刊 絵入

〔転用〕縹色表紙（21.5 × 15.5cm） 外題・内題ナシ 版心：「（白魚尾） 幾（「四」～「八」）」、「（白魚尾） ○ 幾（「四」～「八」）」 印記：見返し右上「和」（丸朱）、「新堂屋」（長方墨）。

＊前半は和歌、後半は謎かけに関連する「絵本」。後半は特に朱と黄の後彩色が目立つ。疲れ本であり印からしても貸本と思われる。

149 夜討曽我 〔2巻存上〕 1冊 〔寛永〕刊 丹緑絵入

墨色地雷文繫〔牡丹〕唐草文艶出原表紙（24.4 × 17.4cm、補修済） 外題：ナシ 内題：「夜討曽我」 版心：「夜討曽我 幾（「一」）～「〔二十九〕）」

版式：無辺無界半葉10行 漢字平仮名、一部振り仮名 印面高約19.8cm
印記など：「残花書屋」（楕円朱）「賓／南」（陰陽方朱2種）（以上戸川濱男（残花）」、「吉田」「小五郎」。 帙入。帙題籤「夜討曽我 〈活字版 零本／丹緑彩色本〉」（横山重筆カ）。

＊欠落する後半25丁が下冊であったか。状態悪く途中の欠丁もあるものの、丁寧な補修され欠丁には白紙を補う。丹緑黄の3色。無彩色の国文学研究資

料館蔵寛永12年刊本とは覆刻の関係カ。帙内に「幕づくし／ 繪つづき／
「貴重」(朱)」と記した原稿用紙裏の紙片(横山重筆カ)を貼り付けた、
貞享4年松會版の『曾我物語』巻8の丁付21～3の3丁(上刷)を、三つ
折りしたものあり。

150 きりかみ曾我 [2巻存上] 1冊 [寛永] 刊 丹緑絵入

〔後補転用〕墨色地雷文繫〔牡丹〕唐草文艶出表紙(24.2×17.0cm、末尾に
縹色表紙の痕跡アリ) 外題ナシ 内題:「きりかみ曾我」 版心:「切曾 幾
(「一」～「十六」)」 版式:無辺無界半葉10行 漢字平仮名、振り仮名・濁
点・句点 印面高約20.3cm 印記など:「吉田」「小五郎」。 帙入。題簽剥落。
*欠落する後半16丁が下冊であったか。疲れ本。丹緑黄の3色。丹緑の国
文学研究資料館蔵(タ7-29)と同版カ。

151 菊譜詩百篇 3巻(含附録) 存巻2 1冊 [貞享] 刊 [後] 彩色絵入

柳染色原表紙(27.2×19.5cm) 外題:左肩子持杵刷題簽「〔菊譜百詠〕図
(末)」(上部欠、神戸大学附属図書館蔵附録に拠る) 内題:「巻之二」(匡郭外)

版心:丁表左端、丁裏右端に巻紙デザインの柱を独立させ、表に「菊譜詩
百編末 幾(「乙」～「廿五終」)」、裏は下部に「徳善齋」とあり 版式:巻
紙模様の四周単辺上文下図、上半葉8行 漢文、返り点・送り仮名 匡郭約
20.3×15.2cm 印記など:裏見返しに「此書 原巻之一及附録と共に三冊
を以て完本なれど惜哉／其両巻を闕く然も余が珍藏本の一たり、／余白山の
研究に従事する廿年餘一昨年白山展覽會／を金澤市立図書館に開くや偶名古
屋村野時哉氏／と同好之故を以て文會の交をなす、近日来訪を得てはじめて
／語る、茲に此書を呈して紀念するものなり。／ 昭和十年十一月中浣／

玉井敬泉(「禪定窟」(長方朱印))と記す(玉井敬泉(1889-1960)は白
山を描き続けた画家。村野時哉(?-1937)は植物学者・蔵書家)。「き」(丸
墨)、「吉田」「小五郎」。

*花図を丁寧極彩色で塗る。本文の状態良好。

152 たかだち 2巻存下 1冊 [寛永] 刊 丹緑絵入

縹色〔原〕表紙(25.0×16.9cm) 外題ナシ 内題:「たかだち 下」 版心:「高
館 下幾(破損により殆ど読めず)」 版式:無辺無界半葉10行 漢字平仮名、
振り仮名・濁点・句点 印面高約20.2cm 印記など:見返しに「慶安三年／

中河佐右衛門（花押）／寅ノ十一月〔破損〕、「東野村彦八」・「東野村中村彦八」、剥がれた裏見返し裏に「東ノ〔 〕（花押）」などと墨書。「吉田」「小五郎」。

*未補修の糸切れ本で状態は極めて悪い。丹緑黄の三色で丹の銀化が激しい。巻は異なる 53、無彩色の広島大学図書館蔵本、国文学研究資料館蔵寛永 12 年版「舞の本」所収本と同版カ。

154 平治物語 3 巻存巻 2 1 冊〔延宝頃〕刊 丹緑風彩色絵入

後補転用雷文繫牡丹唐草文艶出丹表紙（26.3 × 18.8cm） 外題：左肩子持梓刷題簽「平治物語 □」 目録題：「平治物語巻第二目録」 内題：「平治物語巻第二」 尾題：「平治物語巻第二終」 版心：「平治巻二 幾（「一」～「四十三」）」 版式：無辺無界半葉 12 行 漢字平仮名・濁点・句点 印面高さ約 21.8cm 印記：「吉田」「小五郎」。

*丹緑黄青など 4 色。

155 しつか 1 冊〔寛永頃〕刊〔丹緑〕絵入

後補転用茶色表紙（23.5 × 17.5cm） 外題：左肩打付で「静〈丹緑／舞の本〉と朱書 内題丁欠 版心：「静〔幾〕（「〔四〕」～「〔八〕」（破損につき他本により推定)）」 版式：無辺無界半葉 10 行 漢字平仮名、振り仮名・濁点 印面高約 20.2cm 印記など：転用と思われる裏表紙の見返しの袋内側に「〈神田村〉／ 富永兵右衛門」と墨書。「吉田」「小五郎」。

*首尾欠。丹緑黄紫の 4 色。国文学研究資料館蔵本（タ 7 - 7 1）、舞鶴市郷土資料館蔵本と同版カ。国文学研究資料館蔵寛永 12 年版「舞の本」、無刊記の国会図書館・国立公文書館蔵本と覆刻の関係カ。

156 〔塵劫記〕 4 巻存巻 3, 4 1 冊〔寛永 11 年（1634）〕刊 図入

新補茶色表紙（19.5 × 13.8cm） 外題・内題ナシ 版心：「塵三（四）〔幾〕（状態悪く判読不能）」 版式：無辺無界半葉 10 行と四周単辺無界半葉 10 行を混用 漢字平仮名 印面高約 14.0cm 匡郭約 14.0 × 11.9cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

*表紙に鉛筆で「塵劫記」、「寛永十一年版？」などと記す。首尾欠の疲れ本。朱墨書入れ多く、度々見開き全体に朱斜線を引く。数種ある寛永 11 年版の内、早稲田大学図書館蔵（イ 16 00028）と同版カ。新しい紙袋の表に「塵劫記

／ 吉田光由著／寛永十一年版？／ 《一六三四年》／日本最初の算術書」と墨書。

157- 1 〔新編塵劫記〕 3巻存上 1冊 〔寛永4年(1627)跋〕刊 図入
無表紙(26.8×18.1cm) 外題・内題ナシ 版心：「上巻 幾(「廿二」～、以下破損多し)」 版式：無辺無界半葉10行 漢字平仮名、稀に振り仮名・濁点 印面高約21.1cm 印記など：「吉田」「小五郎」。

*綴糸のない首欠の疲れ本。下(157-2)の袋に同封。ボール紙と厚紙の二重の包紙に「〈寛永版〉塵劫記 上巻」と墨書。ボール紙に「□□藏本」(長方陰朱)あり。

157-2 新編塵劫記〈跋〉 3巻存下 1冊 寛永4年(1631)跋刊 同8年吉田光由自署 色摺図入

後補転用紺色地網目文艶出布目表紙(28.0×18.9cm)(裏表紙の綴じ付近に栗皮紙の痕跡あり) 外題：左肩薄縹色格子刷毛引題簽に「新編塵劫記〈吉田光由〉下」と墨書。 目録題：「塵劫記下巻之目録」 内題ナシ 跋中題：「新編塵劫記」 版心：「下巻 幾(「目」「一」～「廿七終」)」 版式：無辺無界半葉10行 漢字平仮名、稀に振り仮名・濁点 印面高約21.2cm 刊記など：「于時寛永第四年曆龍集彊梧／単閼仲穠好日辰西嶺舜岳／野釈(玄光)以跋」、次丁仮名文跋の末尾に、「寛永八年六月日吉田七兵衛光由(花押)(名前花押の下に壺形と丸の光由の朱印)」と自署。 印記など：見返しに「原裝破損のまゝ、久しく大切に保存したれど／人に見せ又は他に貸出しなど度重なれば／勢ひいたみも甚だしくなりぬ／よりて此たび仮表装をほどこすもの也／乙未春 通平寺古稀翁」。初丁(現在初丁のようにみえるのは外れた見返し)表右上に「駿州／池(井桁に「七」)谷／大宮」(丸墨、富士宮の豪商池谷家カ)、「吉田」「小五郎」。

*もと見返しの桜樹図は花卉が丹、葉が薄緑(色抜けして薄黄色に見える)で刷られ、続く初丁表の「継子立」図は、子供の着物が朱(銀化が目立つ)と黄で印刷される。左上部破損。新しい紙袋の表に「吉田光由／新編塵劫記／〈1631年／1627(「1627」墨滅)年〉寛永八(「四」を訂正)」六月／
／ 昭和四十七年三月三十日発行の／ 『古刊^(ママ)の塵劫記』山崎与右衛門述／P. 1 P. 2に記載」と墨書があるように、袋内に、『帝京経済学研究』5

- 2 の「古刊本の塵劫記」抜刷や、1999 年冬の町田市立国際版画美術館「江戸の華 浮世絵展」の借用書、他伝本の朱墨套印部分の白黒写真などがある。

158 〔保元物語〕 卷 3 断簡 合 1 紙 〔寛永〕 刊 丹緑絵入

大きさ：25.7 × 17.3 + 4.0cm（挿絵 1 図に「左大臣殿御しがいじつけんの事」冒頭 3 行分を継ぐ） 版式：無辺無界半葉行数不明 漢字平仮名交じり、振り仮名・濁点・句点 文字部分印面高約 22.3cm 挿絵左肩に「丹緑本〈保元物語／寛永版〉」と書かれた紙片を貼付。

* 丹緑黄の 3 色。台紙貼付。

159 天じんきやう 折本 1 帖 〔江戸前期〕 刊 〔後彩色〕 絵入

大きさ：12.4 × 43.0（折幅約 5.3）cm、2 紙継ぎ 台紙貼付につき外題不明
内題：「天じんきやう」 版式：全体で四周単辺無界 1 面 4 行 漢数字以外平仮名、濁点・句点 匡郭約 11.7 × 42.8cm

* 首尾の 2 図に朱を手彩色する。台紙貼付。

160 〔祭礼行列図摺物〕 その 1 「立町」 1 紙 〔江戸前期〕 刊 丹緑風彩色

大きさ：13.2 × 40.4cm、2 紙継ぎ 版式：四周短辺 匡郭約 11.3 × 40.4cm 「五番」・「立町」とあり。

* 色褪せた丹緑の雑な横線の 3 色。台紙貼付。161 と一具カ。

161 〔祭礼行列図摺物〕 その 2 「大町」 1 紙 〔江戸前期〕 刊 丹緑風彩色

大きさ：12.5 × 41.3cm、2 紙継ぎ 版式：四周短辺 匡郭約 11.7 × 39.8cm 「□番」・「大町」とあり。

* 色褪せた丹緑の雑な横線の 3 色。台紙貼付。160 と一具カ。

162 〔夜討曾我〕 断簡 その 1 「すそくろ」 1 紙 〔寛永頃〕 刊 丹緑絵入

大きさ：12.4 × 37.1cm 版式：天地横界、界高 10.7cm、上図下文

* 丹緑の 2 色。台紙貼付。「紋尽し」部分。折目の様子からすると表紙の裏貼りカ。163 と一具。吉田「失われた丹緑本」（『民藝』224、1971）に、名古屋の古書店主が寛永の本の表紙裏から見出したもので、幸田成友より譲られたものとの記述あり。

163 〔夜討曾我〕 断簡 その 2 「ふた」 1 紙 〔寛永頃〕 刊 丹緑絵入

大きさ：12.5 × 36.9cm 版式：天地横界、界高 10.8cm、上図下文

*丹緑の2色。台紙貼付。折目の様子からすると表紙の裏貼りカ。162と一具。
「失われた丹緑本」に記述あり。

164 - 1 「御きやうかうのしたひ断簡」 その1「同 ふ〔る〕や」 1紙
〔江戸前期〕刊 丹緑絵入

大きさ：12.7 × 21.4cm 版式：文字・図共に2段、文字図段間に界線

*丹緑黄の3色。台紙貼付。古活字覆刻整版の『寛永行幸記』とは別版。折目からすると表紙の裏貼りカ。165、166と一具カ。吉田「失われた丹緑本」(『民藝』224、1971)に、名古屋の古書店主が寛永の本の表紙裏から見出したもので、幸田成友より譲られたものとの記述あり。寸法と枚数に不一致があるも、現状のままに著録す。

164 - 2 御きやうかうのしたひ〔断簡〕 その2「御きやうかう」 1紙〔江戸前期〕刊

大きさ：12.7 × 16.7cm 内題：「御きやうかうのしたひ」 版式：2段、文字図段間に界線

*台紙貼付。表紙の裏貼り。165、166と一具。165 - 1と同一部分で5行短い。

165 - 1 御きやうかうのしたひ〔断簡〕 その3「御きやうかう」 1紙〔江戸前期〕刊

大きさ：13.4 × 21.6cm 内題：「御きやうかうのしたひ」 版式：2段、文字図段間に界線

*台紙貼付。表紙の裏貼り。164、166と一具。164 - 2と同一部分で5行分長い。「失われた丹緑本」に記述あり。

165 - 2 「御きやうかうのしたひ断簡」 その4「さうしき」 1紙〔江戸前期〕刊 丹緑絵入

大きさ：13.7 × 22.3cm

*丹緑の2色。台紙貼付。表紙の裏貼り。164、166と一具。

166 「御きやうかうのしたひ断簡」 その5「□そも」 1紙〔江戸前期〕刊 丹緑絵入

大きさ：12.7 × 38.3cm

*丹緑の2色。台紙貼付。牛車部分。表紙の裏貼り。164、165と一具。

**167 〔閑吟集歌断簡〕 その1「おもしろの」 1紙 〔江戸前期〕刊 丹
緑風彩色絵入**

大きさ：11.7 × 19.9cm 版式：平仮名、濁点

＊薄い丹緑の2色。台紙貼付。『閑吟集』「おもしろの／はなの／みやこや」歌を散し書きにし、稚拙な挿絵を加える。折目からすると表紙の裏貼りカ。168と一具。吉田「失われた丹緑本」(『民藝』224、1971)に、名古屋の古書店主が寛永の本の表紙裏から見出したもので、幸田成友より譲られたものの内の、「何の断片か不明のものが二枚ある」に該当するカ。

**168 〔閑吟集歌断簡〕 その2「の」 1紙 〔江戸前期〕刊 丹緑風彩色
絵入**

大きさ：10.9 × 20.6cm 版式：平仮名

＊薄い緑と濃い丹の2色。丹は汚れか。台紙貼付。表紙の裏貼りカ。167と一具。

**169 毘沙門天本地〈尾〉 3巻存中 1冊 〔承応3年(1654)〕刊 〔丹緑〕
絵入**

〔後補転用〕茶色地艶出表紙(27.7 × 16.5cm)(裏は後補転用薄縹色表紙)
外題：左肩打付で「毘沙門天本地」と朱書 内題丁欠 尾題：「毘沙門天本地中終」 版心：「中 幾(「三」～「十七」)」 版式：四周単辺無界半葉10行 漢字平仮名、稀に振り仮名・濁点・句点 匡郭約18.4 × 14.4cm 印記など：「吉田」「小五郎」。 帙入。帙題簽「毘沙門天本地中終」。

＊水濡れなど傷みが激しく、表紙のみ補修。表紙右肩に「承応三年」と朱書。薄い丹緑黄の3色。東京大学総合図書館蔵霞亭文庫の無彩色の承応3年版『毘沙門天王之本地』と同版カ。

**170 〔百合若大臣〕断簡 その1「してなん」 1紙 〔寛永頃〕刊 古活字
大きさ：24.8 × 21.4cm 版心：「ゆり五」 版式：無辺無界半葉不明 漢字平
仮名 下部刷れておらず印面高さ不明**

＊折目からすると表紙の裏貼りカ。171と一具カ。

**171 〔百合若大臣〕断簡 その2「おうし」 1紙 〔寛永頃〕刊 古活字
大きさ：23.3 × 13.1cm 版式：無辺無界半葉不明 漢字平仮名交じり 印面
高約19.9cm**

＊表紙の裏貼りカ。170と一具カ。

172 〔夜討曾我〕断簡 「寸の木」 1紙 〔寛永頃〕刊 古活字

大きさ：27.3 × 4.1cm 版式：無辺無界半葉不明 漢字平仮名 存2行半
印面高約 20.7cm

＊表紙の裏貼りカ。

173 〔御成敗式目〕断簡 その1「喜悦」 1紙 〔元和10年(1624)〕刊

大きさ：30.7 × 21.4cm 版心：「式目 六」 版式：無辺無界半葉6行 漢文、
返点・片仮名振り仮名・送り仮名 印面高約 23.5cm

＊折目からすると表紙の裏貼りカ。174～176と一具。江戸東京博物館蔵元和10年版と同版カ。

174 〔御成敗式目〕断簡 その2「進止」 1紙 〔元和10年(1624)〕刊

大きさ：29.9 × 20.5cm 版心：「式目 七」 版式：無辺無界半葉6行 漢文、
返点・片仮名振り仮名・送り仮名 印面高約 23.5cm

＊丁裏1行目まで存。表紙の裏貼りカ。173、175、176と一具。

175 〔御成敗式目〕断簡 その3「無理」 1紙 〔元和10年(1624)〕刊

大きさ：30.2 × 16.8cm 版式：無辺無界半葉7行（末尾一行増） 漢文、返点・
片仮名振り仮名・送り仮名 印面高約 23.5cm

＊第37丁裏。表紙の裏貼りカ。173、174、176と一具。

176 〔御成敗式目〕断簡 その4「與一」 1紙 〔元和10年(1624)〕刊

大きさ：30.8 × 15.9cm 版式：無辺無界半葉6行 漢文、返点・片仮名振り
仮名・送り仮名 印面高約 23.5cm

＊第38丁裏。表紙の裏貼りカ。173～175と一具。

177 〔しつか〕断簡 「わうを」 1紙 〔寛永頃〕刊 古活字

大きさ：29.4 × 21.6cm 版式：無辺無界半葉11行 漢字平仮名 印面高約
22.6cm

＊丁裏1行半まで存。表紙の裏貼りカ。180～182と一具カ。

178 〔百合若大臣〕断簡 「大臣は」 1紙 〔寛永頃〕刊 絵入

大きさ：24.5 × 23.5cm 版心：「ゆり 五」 版式：無辺無界半葉11行
漢字平仮名 上部破損につき印面高さ不明

＊折目からすると表紙の裏貼りカ。丁表の挿絵一部存。170、171とは別版カ。

179 護諸童子經〈糊代題〉断簡 粘葉装 1紙 〔江戸中期〕写 彩色図入

大きさ：16.7 × 16.8cm 糊代題：「護諸童子經 二」 書式：白界7行 界高13.5cm 界幅1.9cm 漢文一部朱梵字、返り点・片仮名振り仮名・朱句点

* 1折4頁分。正式名称「仏説護諸童子經」（真福寺に伝本あり）。

180 〔しつか〕断簡 「のとき」 1紙 〔寛永頃〕刊 古活字

大きさ：28.4 × 16.6cm 版式：無辺無界半葉不明 漢字平仮名 印面高約22.8cm

* 丁表8行半まで存。表紙の裏貼りカ。177、181、182と一具カ。

181 〔しつか〕断簡 「かいと申」 1紙 〔寛永頃〕刊 古活字

大きさ：28.3 × 21.6cm 版式：無辺無界半葉11行 漢字平仮名 印面高約22.8cm

* 丁裏半行まで存。表紙の裏貼りカ。177、180、182と一具カ。

182 〔しつか〕断簡 「〔い〕ふて」 1紙 〔寛永頃〕刊 古活字

大きさ：29.7 × 18.5cm 隠し丁付：丁裏左下「十一」 版式：無辺無界半葉不明 漢字平仮名 印面高約22.8cm

* 丁裏左端から9行半まで存。表紙の裏貼りカ。177、180、181と一具カ。

183 〔二十四孝図〕「大しゆん」 1紙 〔江戸中期〕刊 丹緑風彩色

大きさ：19.3 × 10.5cm 右上単枠見出し「大しゆん」

* 丹緑黄の3色。184と一具。

184 〔二十四孝図〕「たうふじん」 1紙 〔江戸中期〕刊 丹緑風彩色

大きさ：19.3 × 10.5cm 右上単枠見出し「たうふじん」

* 丹緑黄の3色。183と一具。

185 〔妙法蓮華経普門品〕断簡 1紙 〔江戸前期〕刊

大きさ：9.0 × 27.0cm 版式：下部破損の为天界線のみ存 漢文

* 最大1行9字を残し下部破損。もとは高さ20cm弱の卷子本カ。折目からして表紙の裏貼りカ。

186 〔たかたち〕断簡 その1「いへとも」 1紙 〔寛永2年〕刊 絵入

大きさ：15.4 × 19.0cm 版式：四周単辺半葉行数右端破損により不明 漢字平仮名、濁点 匡郭高約12.1cm

* 画中詞形式の横本。折目からして表紙の裏貼りカ。187と一具。

187 〔たかたち〕断簡 その2「やくらに」 1紙 〔寛永2年〕刊 絵入
大きさ：15.7 × 23.3cm 版心：「三」 版式：四周単辺半葉 25行 漢字平仮名 匡郭約 12.1 × 19.6cm

* 画中詞形式の横本。丁裏図の一部まで存。表紙の裏貼りカ。186 と一具。

188 〔山中常盤〕断簡 その1「せき」 1紙 〔江戸初期〕刊 絵入

大きさ：11.8 × 3.1cm 版式：無辺無界半葉行数不明 平仮名

* 画中詞形式の横本カ。折目からして表紙の裏貼りカ。189、190 と一具カ。

**189 〔山中常盤〕断簡 その2「するりと」 1紙 〔江戸初期〕刊 丹緑風
絵入**

大きさ：12.0 × 19.8cm 版式：無辺無界半葉行数不明 ほぼ平仮名 印面高さ約 10.3cm

* 画中詞形式の横本。淡い丹緑の2色。表紙の裏貼りカ。188、190 と一具カ。

**190 〔山中常盤〕断簡 その3「いかに」 1紙 〔江戸初期〕刊 丹緑風
絵入**

大きさ：12.5 × 16.2cm 版式：無辺無界半葉行数不明 ほぼ平仮名 下部破損により印面高さ不明

* 画中詞形式の横本。表紙の裏貼りカ。188、189 と一具カ。

五十音索引

凡 例

- 一、書名は理解しやすい漢字に改め、現代仮名遣いでの五十音順に並べてある。
- 一、現状の書名が一般的ではない場合は、「国書データベース」を参考にし、て分かりやすい書名に改め、現書名を（ ）に入れて示した。
- 一、書名が不明で仮称を付したものは〔 〕に入れて示した。
- 一、部分的なものは番号の後の（ ）内に存在部分を明記した。
- 一、元一具でありながら、冊ごとに別番号を与えられたものは、改めて「・」で繋いで示した。
- 一、別書名を有するものについては、「→」で参照すべき書名を示した。

あ行

- 明石物語……056（上），057（下），058（下）
- 愛宕地藏之物語……010（下）
- 敦盛……140
- 伊勢物語……039（下）
- 伊勢物語絵抄……040（上）
- 磯崎……018（下）
- 伊曾保物語……095（上）
- 和泉……066，067
- 和泉式部……080
- 岩屋の草子……084
- 薄雪物語……031（上），032（下）
- 馬揃……145
- 恨之介……087（上）
- 烏帽子折……013（下），014，015，143，144（上）

〔絵本 2 種抜粋〕 ……148

笈搜 ……070

往生要集断簡 ……112

大坂物語（大阪物かたり） ……064（下）， 065

大雑書 ……099

〔御行幸次第断簡〕 ……164 - 1, 2, 165 - 1, 2, 166

か行

格致算書 ……023（上）

景清 ……050

鎌倉管領九代記 ……096 ～ 8（4 下・8 上・9 下）

鎌田 ……054

〔閑吟集歌断簡〕 ……167, 168

〔祇園祭礼行列絵巻断簡〕 ……115

菊譜詩百篇 ……151（2）

義経記 ……101（1～4）， 102（1）・109（2）・117（5）・121（7）， 103（1）・
108（2）， 104（1）・113（3）， 105（1）・107（2）・111（3）・116（5）・119（6）・
120（7）， 106（1）， 110（3）・118（6）・125（8）， 122（7）， 123（7）， 124（8）

〔稀書複製会叢書見本帳〕 ……147

切兼（きりかみ）曾我 ……150（上）

熊野本地 ……036（上）， 037（上）， 038

弘法大師御本地 ……069（中下）

碁経 ……076

護諸童子経断簡 ……179

御成敗式目断簡 ……173 ～ 6

小袖曾我 ……138

さ行

〔祭礼行列図摺物〕 ……160, 161

狭衣 ……025（上）、 026

三人法師 ……062

時雨 ……073（中）

四十二の物争……033, 034

四生の歌合……061

静……141, 155, 177 (断簡), 180 (断簡), 181 (断簡), 182 (断簡)

信太……100 (下)

七人比丘尼……047 (上), 048 (上)

釈迦如来御本地……028 (中下), 029 (下)

十二段の草子……081

生下未分語……078, 079

塵劫記・新編——…155, 156 (3・4), 157 - 1 (上), 157 - 2 (下)

親鸞上人記……049

西湖八景……074

曾我物語……126, 127 (2)・137 (12), 128 (2), 130 (4), 131 (8), 132 (8),
133 (8), 134 (11), 135 (9), 136 (11)

た行

太織冠……016, 017

太平記理尽盡圖經……043～6 (1～4)

高館……051 (下), 052 (下), 053 (上), 152 (下), 186 (断簡), 187 (断簡)

七夕……093 (下)

田村の草子……035, 139

田原藤太……090

丹前雛形……077 (上)

月日の御本地……042

築島……083→兵庫

天狗の内裏……072 - 1 (上), 072 - 2 (下)

天神経……159

な行

抛入花傳書……027

二十四孝……091

〔二十四孝図〕……183, 184

仁勢物語……024 (下)

日蓮上人註画讃……030

は行

鉢かづき……019

萬松院殿穴太記……082

〔版本断簡貼交帳〕……146

毘沙門天本地……169（中）

兵庫……083 → 築島

笛の巻……055

富士の人穴草子……011（下），012（上）

伏見常盤……088，094

文正草子……086（下）

平家物語……004（2），

平治物語……001（1）・005（2），002（3），003（2），006（2），007（2・3），
154（2）

弁慶物語……071

保元物語……089，142（1），158（3）

堀川夜討……085（下）

ま行

満仲……020，021，022

妙法蓮華經普門品断簡……185

文覚……041，059（上）

や行

屋島（八嶋）……008，009（下）

山中常盤……188（断簡），189（断簡），190（断簡）

山分……075

百合若大臣……060，170（断簡），171（断簡），178（断簡）

夜討曾我……149（上），162（断簡），163（断簡），172（断簡）

わ行

和田酒盛……092

